

---

○ 議事日程(第3号)

1 一般質問

---

○ 本日の会議に付した事件……議事日程に同じ

---

○ 出席議員次のとおり(14名)

1番	小林民夫君	8番	高田佳久君
2番	山本光俊君	9番	徳竹栄子君
3番	湯本晴彦君	10番	渡辺正男君
4番	布施裕泉君	11番	児玉信治君
5番	西宗亮君	12番	小林克彦君
6番	望月貞明君	13番	山本良一君
7番	高山祐一君	14番	小淵茂昭君

---

○ 欠席議員次のとおり(なし)

---

○ 職務のため議場に出席した議会事務局職員の職氏名次のとおり

議会事務局長 河野雅男 議事係長 湯本豊

---

○ 説明のため議場に出席した者の職氏名次のとおり

町長	竹節義孝君	副町長	柳澤直樹君
教育長	佐々木正明君	会計管理者	山崎和彦君
総務課長	柴草隆君	税務課長	成澤満君
健康福祉課長	藤澤光男君	農林課長	山本和幸君
観光商工課長	小林広行君	建設水道課長	鈴木隆夫君
教育次長	渡辺千春君	消防課長	徳竹彰彦君

---

(開 議)

(午前10時00分)

議長(小淵茂昭君) おはようございます。本日はご苦労さまです。

ただいまの出席議員数は14名です。したがって、会議の定足数に達しておりますので、本日の会議は成立しました。

これより本日の会議を開きます。

---

## 1 一般質問

議長(小淵茂昭君) 本日は日程に従い、一般質問を続行し、5番から8番まで行います。

質問通告書の順序に従い質問を許します。

12番 小林克彦君の質問を認めます。

12番 小林克彦君、登壇。

(12番 小林克彦君登壇)

12番(小林克彦君) 改めて、おはようございます。

今議会2日目ですが、2日目にして傍聴者2名、ご出席いただきまして大変ありがとうございます。

さて、最近、非常に残念なことがございました。それは直近の地元新聞に私たち議会の一般質問が取り上げられておりました。内容は、質問者の数に関するものであり、質問者が少ないとの批判のご意見であります。これは議会報告会でも問われたこともあり、私たちも十分承知をしておるところであります。量より質という方もあれば、質より量だと双方の考えが存在するところでもあります。議員も議員活動における一般質問の重要性は認識しつつも、その位置づけは一様ではありません。

したがって、記事とされたこと自体にいささかの疑義ありませんが、残念と申し上げましたことは、一方のみの意見であり、対局側の意見の紹介がなかったことであります。また、近隣市町村との客観的比較もございませんでした。また、匿名の意見紹介であれば執筆者である記者の氏名は必要ではなかったでしょうか。地元新聞が1社となっておる今こそ、読者は記事の公平な扱いを一番望んでおられるのではないのでしょうか。

さて、それはそれとして、一方、米国の次期大統領となったトランプ氏の発言は、世界の経済、政治に大きな波乱を及ぼしております。とりわけ日本においては、TPPからの離脱は大きな問題であります。トランプ氏は自国不利と見て米国第一主義を唱え、諸外国へは保護主義政策で対応する考えのようであります。

しかし、この考え方は20世紀までの今は昔の思想であり、保護主義、一国主義はこれまで世界に何をもたらしてきたか顧みるべきであります。話し合いで思うようにならなければ自国の利益のためとして武力によって相手国の領土を奪い、国民を服従させ、その支配の力により目的の実現を図ってきたのであります。21世紀は環境と人権の世紀と期待されております。国家間の紛争は全て話し合いによらなければなりません。そのための手段となるルールの一つがT

PPであります。

日本は明治以降、世界に誇る貿易立国へと成長しましたが、世界の中における地位も自由貿易によって培われたとあって過言ではありません。日本も短期的には損も出ましようが、長期的には安全保障の意味合いからも、必ずや大きな資産となるはずであります。平和な世界実現のためには、大国も小国も先進国も途上国も互いに認め合う公平なルールを構築し、ウイン・ウインな関係を実現することであります。近い将来、F T A（自由貿易協定）それからE P A（自由経済協定）に国連加盟の193国の全てが参加できることを願うところであります。

それでは、通告に従い質問いたします。

1、公共サービスのあり方について。

(1) 行政（税）による住民サービスの限界について。

①行政と民間による供給の界はいかがか。

2、人口問題について。

(1) 人口減少はなぜ問題なのか。

①産業とのかかわりについて。

②家族・家庭とのかかわりについて。

(2) 町の傾向をどのように判断されているか。

①行政の関与の限界はいかがか。

②まちづくりの軸足はいかがか。

3、公共交通について。

(1) 三者協議の進捗状況はいかがか。

(2) もし廃止となった場合の対応はいかがか。

4、いわゆる「産後うつ」について。

(1) 町の対応状況はいかがか。

5、国道403号の整備について。

(1) 竣工間近な裏落合工区について。

(2) 下須賀川地区の歩道整備について。

以上であります。再質問は質問席にて行います。

**議長（小淵茂昭君）** 答弁を求めます。

竹節町長、登壇。

(町長 竹節義孝君登壇)

**町長（竹節義孝君）** 改めて、私のほうからおはようございます。

小林克彦議員のご質問にお答えいたします。

1点目の公共サービスのあり方についてのご質問ですが、昨今の公共サービスに対する需要は多様化、高度化、公共サービスを行政のみで提供することは不可能な状況にありますので、第5次総合計画、おもてなしの心、職員研修の充実等、引き続き自助・共助・公助を基本に自

信と誇りの持てる郷土づくりとなる元気なまちづくりに努めてまいりたいと考えております。

なお、詳細につきましては、総務課長からご答弁申し上げます。

次に、2点目の人口問題についてのご質問ですが、人口減少に伴う影響は多岐にわたり、前段の質問でもお答えしたとおり、人口減少とそれに伴う経済、産業活動の縮小によりまして、町の税収は減少しますので、その一方で高齢化の進行から社会保障費の増加が見込まれ、町財政はますます厳しさを増していくことが想定されます。

細部につきましては、総務課長からご答弁申し上げます。

次に、3点目の公共交通について2点のご質問をいただいておりますが、高齢者や学生などのほかに、移動手段を持たない交通弱者のため、高齢者、障害者への福祉乗り物乗車券の交付や学生の定期券補助等での支援と、今後も公共交通の維持確保に努めていく必要があります。

現在、長電バスや中野市と協議しており、現時点で方向性をお話しできる段階には至っておりませんが、年内には方向づけがなされる予定であり、それを踏まえ、町としての方針も協議してまいりたいと思っております。

次に、4点目のいわゆる産後うつについてのご質問ですが、幼児にかかわる事件など社会問題化されるほど、出産後の心身ともに不安定な中での母親の心身の健康は極めて大切と考え、保健師の充実などによる心のケアなどで対応しております。

詳細は健康福祉課長からご答弁申し上げます。

次に、5点目の国道403号の整備について2点のご質問をいただいておりますが、多くの方々の力添えをいただき、今年9日に落合橋の開通式がとり行われる運びになりました。木島平側に若干工事が残るようですが、当町にとって北の玄関口としての新たな交通の流れが確立され、須賀川地区や観光面含め地域の活性化につながっていくものと期待しているところであります。

下須賀川地区の歩道整備のことを含め、詳細については建設水道課長よりご答弁申し上げます。

以上です。

**議長（小淵茂昭君）** 総務課長。

**総務課長（柴草 隆君）** おはようございます。

小林克彦議員のご質問にお答えをいたします。

1の公共サービスのあり方の（1）行政（税）による住民サービスの限界についての①行政と民間による供給の界はいかかかのご質問ですが、平成21年7月に施行されました公共サービス基本法では、公共サービスについて国及び地方公共団体に対し、その安全、良質、確実、効率的な実施、需要の把握とこれへの的確な対応、必要な選択肢の提示、随時の見直しなどを求めており、当町におきましても、町民の意向、議会のご意見なども踏まえながら、公共サービス基本法の趣旨に沿った対応に鋭意努めているところでございます。

しかしながら、歳入の大きな柱であります町税は、景気の先行き不透明感や消費低迷などか

ら減収が続いていくものと推測され、長期債務残高も増加する一方で、少子高齢化等を背景とした行政需要は確実に増加することが見込まれております。

国からは、このような状況下においても質の高い公共サービスを引き続き効率的、効果的に提供するためには、民間委託の積極的な活用によるさらなる業務改革を推進するよう求められております。

先ほど町長も申しましたように、引き続き町民と議会、行政が一体となって進めていく協働のまちづくりに努めてまいりたいと考えております。

続きまして、2の人口問題についての（1）人口減少はなぜ問題なのかについて2点のご質問をいただいておりますが、①の産業とのかかわりについての問題点としましては、労働力人口の減少、貯蓄率の低下及び技術進歩の鈍化により、基本的には経済成長にマイナスの影響をもたらすことにならうかと思えます。その中でも当町においては労働力不足による基幹産業の低迷に拍車がかかることとなります。

次に、家族・家庭とのかかわりについての問題点としましては、小世帯化や家族間の変化により家族のあり方が変わってきており、一番の問題としては、家族が一緒にいることが少なくなってきたという点であろうかと思えます。

次に、（2）の町の傾向につきましては、昨年度に策定いたしました山ノ内町人口ビジョンにおいて、現在及び将来の姿について分析しており、先日確定しました平成27年国勢調査においても、5年前の調査と比べると1,249人減少し9.1%減となり、県全体の2.5%減よりも人口減少のスピードは速くなっております。

①の行政の関与の限界はとのご質問ですが、人口減少問題を生み出している一番の要因は少子化であろうと思えます。町としましては、18歳までの医療費無料化、多子世帯における保育料軽減、不妊・不育症治療補助、婚活支援など各種の結婚、出産、子育て支援策を推進してまいりましたが、少子化対策に特効薬はなく、国策で対処すべきものが大きいと思われまます。

しかし、限界とって手をこまねいてもいられません。今回の補正予算に小・中学校の卒業祝い金を計上させていただくなど、今後も子育て支援の充実を図ってまいりたいと考えております。

次に、②のまちづくりの軸足はとのご質問ですが、町の基幹産業であります観光と農業の活性化が軸足であり、これからも自助・共助・公助を基本に協働のまちづくりに、郷土に自信と誇りを持てるまちづくりに、引き続き努力をしてまいりたいと思えます。

以上であります。

**議長（小淵茂昭君）** 健康福祉課長。

**健康福祉課長（藤澤光男君）** おはようございます。

それでは、小林議員のご質問にお答えをしたいと思います。

4のいわゆる産後うつについての（1）町の対応状況はいかがかについてのご質問ですが、3月議会におきましても、小林議員のご質問にお答えをしておりますが、出産後は急激なホル

モンバランスの変化や出産、子育ての疲れ等が心身に影響し不調が起こりやすい時期であります。これまでも妊娠届の届け時に保健師、栄養士が個別に面談をし、体調や心配事などの確認を行ったり、プレパパ・ママセミナーにおいて出産後の心身の体調の変化について説明をし、夫や家族の理解や協力が得られるようお話をしております。

また、出生届の届け時に、出産後になりやすい心の不調や病気についてのパンフレットを渡したり、2カ月ごろには保健師が訪問して体調確認をし、必要な方には継続して相談や訪問を行っています。また、乳幼児健診等において仲間づくりの時間を設けたり、子育て支援センターの利用を勧め、育児での孤立化を防ぐよう努めております。

これに加えて、新たに今年度からは出生届の届け時に家族が来庁されることが多いことから、家族向けの資料を作成し配付をしております。また、2カ月訪問時に産婦さんに質問表に記入をしてもらい、心と体の不調についてより細やかな状況把握に努めております。医療機関におきましても、1週間健診や1カ月健診で助産師が産婦さんの体調管理にかかわっており、支援が必要な方があれば町に連絡表が届きますので、保健師が継続して支援を行っています。

以上であります。

**議長（小淵茂昭君）** 建設水道課長。

**建設水道課長（鈴木隆夫君）** それでは補足させていただきます。

5番、国道403号の整備について（1）竣工間近な裏落合工区についてでございますが、落合橋の工事もほぼ完了し、11月24日の広報伝言板でもお知らせしておりますが、今月の9日に落合橋が一般開放される予定に変更はございません。今までご協力いただきました国道403号整備促進期成同盟会、地元県議会議員、北信建設事務所等関係者の皆様方には、この場をお借りして感謝を申し上げます。

木島平側に若干工事が残りますが、冬期交通には何ら支障がないと聞いておるところでございます。

次に、（2）下須賀川地区の歩道整備についてでございますが、今年度から県単の交通安全対策事業として事業化となり、概略設計に着手されたところでございます。今年度地元の皆様へは事業説明会等を開催し、歩道設置箇所や線形等を決定いただいたところでございます。今後の計画につきましては、本年度地形測量まで実施してから、来年度より詳細設計や用地買収等が予定されているところであります。順調にいけば平成31年度から工事着手となるところでございます。

本歩道設置につきましては、地元から以前より強く要望のあった箇所でございます。ようやく前進することができたと捉えておるところでございます。建設事務所には早期完了に向けて要望を続けてまいりたいと考えております。

以上です。

**議長（小淵茂昭君）** 12番 小林克彦君。

**12番（小林克彦君）** それでは再質問させていただきます。

まず、国道403号につきましては、平成12年から計画しまして艱難辛苦、やっと開通から1年おくれですが、県、それから北信建設事務所さん、それから、町、町長初め関係者の皆様のご尽力で、今の状況ですと無事12月9日の開通式は迎えられるそうです。地元住民の一人として感謝申し上げます。まだ、そうは言っても若干工事も残っていますので、後の詰めをよろしくお願いいたします。

それから、下須賀川地区の歩道整備につきましては、歩道の延長とそれからあわせてS字カーブの道路について直進化を図るということをございまして、ちょっと期間が長いかなという気もしないではないですけれども、あわせて整備していただいて、山ノ内地区の403号線は道路側に沿った支障木の伐採も済みまして、大変お客様を迎えるにはいい環境が整いました。道路の整備はあくまでも手段でございますので、あとは地元としてしっかり頑張っていきたいと思っておりますので、今後ともよろしくお願いいたします。

お礼を申し上げまして、次に、4のいわゆる産後うつについてですが、これは3月議会でも私にご質問申し上げました。今、課長の答弁ございました。課長の答弁、今の答弁の範囲内でよろしいですか、もう一度伺います。

**議長（小淵茂昭君）** 健康福祉課長。

**健康福祉課長（藤澤光男君）** 要旨の答弁は以上でありますけれども。

**議長（小淵茂昭君）** 12番 小林克彦君。

**12番（小林克彦君）** これは3月にも私は非常にご訴えを申し上げて、職務上、いろいろ関係するところです。産後うつ、離婚につながっている家庭がすごく多い。新聞報道によれば10人に1人は関係しているという統計がありまして、国が厚生労働省が2017年度からこれに対する施策を発表していますが、これについてご存じでありますか。

**議長（小淵茂昭君）** 健康福祉課長。

**健康福祉課長（藤澤光男君）** お答えします。

私のほうで把握しておりますのは、10月23日付の信濃毎日新聞に掲載になっておりますけれども、産後うつを防ぐために国が来年度から一部の自治体で健診の助成を始めるという制度のことかと理解をしております。

以上であります。

**議長（小淵茂昭君）** 12番 小林克彦君。

**12番（小林克彦君）** これは国が産後うつに対する予防の健診をやろうと、これについて1回当たり5,000円かかる。2回必要だろうということで2回やるんですが、5,000円については国は2分の1補助する。残りの2分の1は地元市町村が負担してほしいということなんです。これについては今、町からするとどういう取り組みを考えていますか。

**議長（小淵茂昭君）** 健康福祉課長。

**健康福祉課長（藤澤光男君）** お答えします。

この健診の助成ですが、産後ケア事業を実施している市町村に限られるということで、現在、

当町で産後ケア事業を実施しておりませんので、町とすれば来年度はまだ対象にならないというようになっております。

以上です。

**議長（小淵茂昭君）** 12番 小林克彦君。

**12番（小林克彦君）** それは非常に消極的ではないですか。国がこれだけ必要性を認めて、政策誘導というか補助までを2分の1をつけると言っている中で、そのもとの適性がないからというのはいちよつと問題ではないですか。そここのところもそちらのほうも改めて、政策として町で取り入れられる方向に、来年度からの予算づけもしていくべきではないかと思いますが、どう思いますか。

**議長（小淵茂昭君）** 健康福祉課長。

**健康福祉課長（藤澤光男君）** お答えします。

この産後ケア事業につきましては、地域におけるニーズや社会資源等の状況を踏まえて実施しなさいということで、現状で山ノ内、今現在、産後うつというふうに診断されている産婦さんがいらっしゃるということもありますし、あとこの社会資源というところで病院だとかそういったものが乏しいというようなことで、この産後ケア事業を実施しておりませんので、国のこの助成の対象が産後ケア事業を実施している自治体に限るというふうになっておりますので、現状では今のところ町とすれば、この健診の助成については考えていないというところでもあります。

**議長（小淵茂昭君）** 12番 小林克彦君。

**12番（小林克彦君）** それは見受けられないんじゃないかと、表にあらわれないだけなんですよね。通常、見逃されてしまうような状況なんです。それは個人差というようなことで、ちょっとあっちの嫁さんおかしいねというくらいで済んでいるんですから。それが後になって大変なことになっていくわけです。これは母性を守るとかそのお子さんを守るとか、家庭の離婚を防ぐとかという問題とともに社会問題になっている話ですので、十分内部、今ここでは議論が合致しませんが、内部検討をぜひしてください。まだ、時間がありますのでお願いします。

次、公共交通について、先ほど、まだ報告できる状況にはないということなんです。9月から公共交通について真剣に話し合いを進めて、何らかの結論をなるべく早く出すんだというお話であって、私どもの説明を受けている範囲内では、中野市がキーパーソンだということが現実にあるということです。これは非常に地域の方々が心配していらっしゃいます。もしということよりも廃止の傾向のほうが、山ノ内から2路線も市内を走って回る必要ないよというようなご意見があるとすれば、やっぱりそれに先手を打って、こちらで計画を立てていかなきゃいけないんじゃないかなと思うんです。それについては住民に不安のないように、町長、先日須賀川へ長寿を祝う会に見えたときは、その後は心配するなというふうを受け取られるご発言がございましたけれども、これについては常時情報を住民に流すべきだと思うんですが、いかがでしょうか。



議長（小淵茂昭君） 竹節町長。

町長（竹節義孝君） そこで申し上げましたのは、今現在、公共交通機関の検討をしていると、こういうことの中でできるだけまた皆さん方にご不便かけないような、そんなことを町としてはやっぱりある程度考えていかざるを得ないだろうと、こういうことで申し上げますし、また、今後具体的なものについては、まだ正直申し上げまして、副町長を中心にした庁内の検討会議、それから中野の副市長を中心にした地域の検討会議、この両方がございますので、これらを踏まえながら、また最終的に判断をしてまいりたいというふうに思います。

以上です。

議長（小淵茂昭君） 12番 小林克彦君。

12番（小林克彦君） 今のはまとめて申し上げますと、住民には迷惑をかけないよう心配するなというふうに拡大解釈をさせていただいて、次期報告を伺いたいと思います。

それでは、頭へ戻りまして、公共サービスのあり方についてですが、大きい政府、小さい政府ということ国も地方も少し前まで大きく議論されてきました。私たちが住民要望というのには、本来それは行政としてやらなければ、税でやるべきものなんでしょうけれども欠けているところ、不足しているところにおいては積極的に、当然、採算が合わないものですが税でやるべき。しかし、利益が上がるところは本来は民間に任せるべきだというのが基本なんだろうと思います。そうしませんと住民要望はどんどんこれは膨らんできて、いいことだから町がやるべきだ、いいことだから町がやらないでどうするんだという話になってまいりますと、しかし、特別の施策を講じなくても利益が出るところは自分がやるよということでは、やっぱり適正な住民サービスというのは、山ノ内全体で見た場合にバランスがとれないのではないかと思います。この自助・共助・公助という表現についても非常に線引きが難しいわけですので、その辺の基本的な考え方がどうなのか。税収さえあれば住民要望、住民ニーズには全て対応するというのが基本なのか、そこを少しお聞かせいただきたいと思います。

議長（小淵茂昭君） 竹節町長。

町長（竹節義孝君） 行政の責務というのは、税金があれば何でもかんでも住民要望に対して応えるということではなくて、やっぱり日本国憲法で保障された住民の皆さんがこの地域で安心して暮らしていただける、そういったための福祉や教育、それから地域の安心・安全、こういったことをやるのが行政ではないかなと、こんなふうに思っております。

私、よく使っておりますけれども、行政とは住民や企業にとって灯台の役目を果たしていかなくちゃならない。要するに、町全体のレベルアップを図るのが行政の仕事であって、民間の皆さんは自分の個々のことについて自分が経営として、あるいは資本主義社会でございますので、それで企業が成り立っていくという、そういうことのためにいろんなことをお考え、そして利益をすることによって、またこの地域の雇用の拡大、人口増、いろんなことになるわけでございますけれども、町として今、もうかることでやっているというのは、はっきり申し上げまして楓の湯と道の駅になると思いますけれども、これは町自身ができるわけじゃございませんの

で、公社の営業としてやらせていただいておりますけれども、行政というのはあくまでもそうした基本的な人権を尊重したりとか、要するにどちらかというともうからない部分、要するに住民の皆さんが安心してお暮らしていただける福祉や教育、そういったところで確保していきたいなと、こんなふうに思っております。

しかし、そのためにはやっぱり企業や住民が安心してそういうことができる、これはやっぱり行政の責務だというふうに思っておりますので、これからも十分そういったことに対してはいろんな皆さんのご意見をお聞きしながら、住民や議会、行政が一体となって取り組んでいきたいなと、こんなふうに考えてございます。

**議長（小淵茂昭君）** 12番 小林克彦君。

**12番（小林克彦君）** 私もそのように思います。住民ニーズというのは住民の生活、生存にかかわること、これが原点だろうと思います。やっぱりそのところを認識して各施策に当たるというのが本当だろうと思います。

ところで、この補正にも出てまいりましたが、いわゆる小学校、中学校の卒業祝い金ですが、これは私は祝い金でもいいんですけども、趣旨は次の学校への進学支援金のようにもとれるんですが、この辺の解釈はどうでしょうか。

**議長（小淵茂昭君）** 竹節町長。

**町長（竹節義孝君）** よそでは入学祝い金を出しているところがあると思います。それも頭に浮かんだんですけども、そうしますと来年の4月になって初めて1年生になる人たちが該当、また、中学1年生も該当になると。こうしますと、今いる子供たちがどうなのかなと。そうするとそれまでちょっと、言うなればよそのをうらやましがりながら見ていなきゃならないなということでございますので、今いるところの子供たちから対応したいということで、卒業6年間頑張っていたいただいたな、そして中学へ行って頑張ってお用品とかジャージだとかいろんなものがあると思いますけれども、かばんだとかそういうものの少しでも負担軽減になっていただければ、また、中学を卒業して高校へ出る、社会人になる、いろんな皆さんがあると思いますけれども、そういうことになるとやっぱり年齢が大きいだけ、また負担も少し余計になるのかなということがございまして、当初は両方とも3万円ぐらいで考えていこうかと思ったんですけども、やっぱり中学3年生のほうが、そういう意味では負担がかかる部分が多いのかなと思ひまして、若干差をつけさせていただきまして、要するに卒業おめでとうと、これからも頑張ってくださいと。できればまたこの地域へ戻っていただければありがたいなと、そんなことの子育て支援策の一環として、少しでも励みになっていただくようにということで考えてございます。

また、教育長とも今相談している最中でございますけれども、校長会の皆さんにご相談申し上げまして、ただ、口座振替だけでやるよりも卒業式の中で、そういったものを励みになるようなことも、わずかな時間でございますので、大きい学校では全員というわけにはなりませんけれども、小さい学校についてはそれぞれの代表の皆さんにお渡ししたり、いろんなこともち

よっと子供の励みを与えたいなど、与えるというのは失礼ですけれども、頑張ってもらいたいなどという、そういう子供たちに激励の意味を含めて、そんなことも企画している最中でございます。

**議長（小淵茂昭君）** 12番 小林克彦君。

**12番（小林克彦君）** わかりました。どこの国も争って人材育成ということを唱えています、今回の町長のその姿勢からすれば、少し突拍子もないことをちょっと言わせていただきます。

もし、小学校が1校に統合できたとすれば、小学校、中学校の並立校ができます。そうしましたら、今の子供たちが大体70人ぐらい、70人ではちょっと少ないので定員80か100ぐらいで山ノ内町に公立でも私立でもいいんですけれども、有名大学のぜひ附属高校を設けていただきたい。その附属高校、空いた校舎を利用して附属高校の中では40名の中で半分ぐらいの方は実業をしっかり学ぶ。1年生ぐらいまでは一般教養で、2年の中間か3年については専門士として資格をとれるぐらいに、観光と農業、もう一方は大学進学組は超有名大の末は博士か大臣ぐらいになるような大学に入れるように、もう英才教育をすると、そのぐらいの夢を持ってほしいと思います。これは答弁は申しわけございません、お願いしません。そういう希望を持って、少し前を見て投資をしていく。

先ほどの行政の公共サービスのあり方のほうも、課題の問題点になっている実態把握は町がやったり、それから、その対策をいろんなところからアイデアを出す。ただ、実際に民間がやるというようなことで、税の使い方も少し考えたらどうだろう。もちろんふるさと納税もごさいますので、そういうようなことも合併しなかった町だけに、小回りをきかせて少し考えられないかなと思う次第です。

次に、人口問題についてお尋ねします。

人口減少はなぜ問題なのかというのは、これはいろいろあるんですが、産業とのかかわりについては生産力は普通ですと落ちます。それはイノベーションで生産性の向上を図って生産量は落とさない、生産者は減る。だけれども、供給がそういう状態になってくると需要のほうも当然減るわけですね。そのオーバーした部分は当然輸出ということになるんで、場合によっては悪いことだけではないのが日本のマクロの状態ではそうなんだろうと思います。

ただし、山ノ内町がどうかということになると、観光でも農業でもやっぱり共通する従事者不足というのと産業力の低下ということは、今、真剣に努力していかないと、これは生産力の向上だけではとても間に合わないのではないかという点で、その点は私も共通認識を持ちますが、さりとてその後継者、従事者を、今も多くの方が入植して新規就農していただいています。今後、これをさらに進める方法として、ワンストップの担当者も設けましたが、これからどういう展開を図っていかれるか、そこを伺います。

**議長（小淵茂昭君）** 竹節町長。

**町長（竹節義孝君）** 人口問題というのは、日本を含めて長野県も全てが今大変な課題だということで、中には一部ベッドタウン化したところ、あるいは企業誘致がされてうまくいっている

ところもないとは言えませんが、そういう中で私どもも移住、定住の担当の専門職員を置いてみたり、それから、また友好交流を通して、できるだけ山ノ内町に関心を持っていただけるようなことということで、専門の係を設けてみたり、いろいろ今模索をしながら、そういったところで専門的に職員が対応することで、少しは何とか方向が出るのかなということであるところがございます。

また、今、地域おこし協力隊員がここで1名、昨日で任期満了になりましたので、そういった職員もこの地域に住んでいただきたいと、こんなことを当初から3年前にもお願いしてありましたので、そういう方向になるように町として今までかかわった経験を生かして、そういう人口増対策措置に新たな職務としてかかわっていただきながら、地域の皆さんの産業振興、それから、対外的な移住、定住の促進を進めていただくような、そんなことを今一方では考えております。

ただ、それは正直言ってミクロ的な部分でございます。マクロ的なものにつきましては、町全体でどう産業振興、要するに観光や農業を中心にしながら働く場所を確保し、そして、それに伴って福祉や教育を充実をすることで、皆さん方が少しでも山ノ内町に関心をお持ちいただき、ここへ来てお暮らしいただけるような、そんなことをこれからもやっぱり国や県、いろんな制度も活用しながら、先ほどご指摘ありました税金を有効的に活用して、町の第5次総合計画に沿いながら取り組んでいきたいなど、こんなふうに考えてございます。また、具体的なご提案があれば、それらも含めて十分検討していきたいというふうに思っています。

**議長（小淵茂昭君）** 12番 小林克彦君。

**12番（小林克彦君）** これはもう何回も私もここで申し上げましたし、町側からの説明がありましたけれども、山ノ内町の人口減少の傾向は全く自然減、出生による不足なんですね。ここ5年ぐらいは転入と転出の差は50人未満ぐらい、これまでは150人ぐらいだったんですが、出生が減ってきましたら、転出、転入の差も落ちてきたんです。こういう状況なんです。そうするとこれを数字で見ても、ご承知のとおり特殊出生率が山ノ内は1.35と県下で最下位です。長野県平均が1.6、全国1.2で国の目標は1.8。山ノ内の婚姻率も0.37で47位。ここが問題なんです。ここら辺はやっぱり個人の生き方にかかわることであって、そろそろ政策誘導では限界に近い状況になってきているんだと思うんです。

ある推計によると、現在の人口ほどこの市町村も維持するには毎年1%の転入が必要だということなんです。約1万3,000人だと毎年山ノ内町は130人の転入がないと現状は維持できない。この数字から言えることは、これからどういう町の方向づけがよろしいのでしょうか。

**議長（小淵茂昭君）** 竹節町長。

**町長（竹節義孝君）** 山ノ内町は観光と農業の町でございますので、いかにしてその観光と農業を振興させるか、充実させるかということに尽きるのではないかなと思っております。住宅事情についてもいろいろ移住、定住の皆さん、あるいは新しい空き店舗補助だとかいろんなことも試みているのが現状でございます。

ただ、うれしい方向としては、新規就農者がこのかわいでは10人前後いるというのは、本当に珍しいなというふうにあちらこちらから言われております。また、特に今年度につきましては16名おりました。今までの中で一番多かった新規就農者、もちろんことしも50代の方がお二人、その中には含まれておりますけれども、非常にそういう意味ではリンゴ、それからブドウ、キノコ、農協さんとタイアップしながらいろいろ支援申し上げてきた、そういったものが大変いいことであり、また、そういう皆さんの所得も上がってきているという。よく農協さんが稼げる農業というふうにおっしゃってございましたけれども、そういう部分ではある程度稼げてきているのかなというふうな状況もあるわけでございますけれども、いずれにしても幾ら住め住めというふうに言って誘導させていただいても、働く場所がないんじゃないということがございます。また、来年度ちょっと試してございますけれども、そういった住宅なんかちょっと町営住宅をいろいろ福祉住宅の一環として整備をずっと毎年しておりますけれども、新たな試みとして、そういう皆さんがお住まいできるようなことも新年度考えていきたいということで、実施計画の中では検討させていただいたところでございます。

大人も子供も楽しんで、あるいは、この地域で働いたり元気を出せるような、そしてよその皆さんから見てもうらやましいな、いいところだなと思っていただけるような、そんなまちづくりをこれからも一緒になって取り組んでいきたいなと、こんなふうに思っております。

**議長（小淵茂昭君）** 12番 小林克彦君。

**12番（小林克彦君）** おっしゃるとおりだと思います。Uターン、Jターン、Iターン、それで県内のU希望の最多は就職で32%、転職、起業、新たに商売を始めると、これが26.2%で60%なんです。ですので、前から申し上げていますように、山ノ内町はこういう人材を求めていますと、来ていただけるとこういうことができますという魅力を訴えるものがいっぱいあるわけですので、それをワンストップ、情報提供の強化をしていただきたい。

ここで一つだけ私は提案があるんですけども、まず、Uターンに力を入れていただきたい。Jターンは中野市から出て行って、また戻って来たのが山ノ内町に来るようなのがJターン、Iターンは東京、いわゆる県外、町外から直接来るとのことですが、Jターン、Iターンにこれに力を入れると、結局は人材の奪い合いと、人の奪い合いということで、今のふるさと納税のようなみっともない状況になり得ますので、仮にもインセンティブでつるという表現はおかしいですけども、ことのないようにこれはUターンでもIターンでも同じ、それか直接後継者でその職をなりわいとしていくという方にも、ぜひ公平な待遇をしていただきたいと思いますが、この辺の考え方はどうでしょうか。

**議長（小淵茂昭君）** 竹節町長。

**町長（竹節義孝君）** それが極めて重要だなという、そんなことがございまして、正直、ことしから総務課の中に専門の係を設け、来年、またそこへ嘱託職員になりますけれども1名増員をして、さらに強化して情報発信と情報収集、それから地元の受け入れ態勢の整備も、やっぱり地域の皆さんの実態把握をしながら、要するに来て住むところがない、働くところがないと

いうことでは困りますので、そんなことも含めて新年度対応するという事で、今のところ考えてございます。

**議長（小淵茂昭君）** 12番 小林克彦君。

**12番（小林克彦君）** それでは、まちづくりの軸足はいかがかということで、最後のきょうの質問の私はまとめに入りたいんですが、究極は現在ここで住んでいる私たち、皆さんが満足するまちづくりができていだろうかということだと思います。これから北部に限らず高齢者の転出が多く出ると思います。それは自分の子供たちがじいちゃん、ばあちゃん、年とったから僕のところへ来なさい、私のところへ来てよということを出ていくわけですので、ここら辺が一つ大きな課題なんです、それはそれとして今ここで生活している方々が満足しているかどうか。それはいつかの一億総中流社会と言われた時代とは別の意味の幸せ感が、満足感があるんだと思います。

ところが、理想的な結婚生活、家庭生活というのは個人差がありますが、家計、子供の教育のために夫婦で共稼ぎをして、お父さんは朝出社するときにお子さんがまだ寝ている、もしくは起きたばかり、帰ってきてみれば子供が寝ている、お母さんも忙しい、くたびれて寝ていると、そういう家庭が果たして満足かどうかということなんだろうと思います。

やっぱり一番大事なものは、私も今まで最低でも300万円の収入という話を結構していましたが、家庭における家庭の可処分所得と、それから、可処分時間、自分、夫婦、子供さん、その家庭でどれだけ自由になる時間がとれるかと。これをつくれるまちづくりがいいんだと思う。その最たるものは特殊出生率で沖縄ですね、1.88人でこれは全国1位です。東京は1.22で47位、最下位。ところが1人当たりの所得を見れば、これが逆転してまして、沖縄は202万円で最低、東京は473万円で1位なんですね。ところが沖縄のほうが出生率が高い。やっぱりこれは何が今の国民が生活へ求めているかということであらわしているんだろうと思います。やっぱり生産性の向上、イノベーションを働かせて、若者に、また家庭に、時間に、お金にゆとりある生活を私たちは目指すべきだと思います。

以上、申し上げて町長の答弁を聞いて終わります。

**議長（小淵茂昭君）** 竹節町長。

**町長（竹節義孝君）** 人の幸せというのは、やっぱりお金とか財産とかそうではなくして、心、あるいは健康、いろんなことがあるだろうと思います。もちろん、人それぞれによって価値観も全く違いますし、最初聞いておりながら、私も新婚当時はずっと長野へ通っておりましたので、朝6時40分にはうちを出て、朝食済ませて、夜帰って来るのが大体9時、10時で、土日も出ておりましたので、正直言って2人目の子供はほとんど私に懐かなくて、私の顔を見ると隠れていたり、泣き出したりしたと、こういう状況でございまして、たまたま3連休がございまして、その中でようやくなれてきたという、自分でも実体験をさせていただきます。

そういう中で、せめても自分の子供たちや孫たちには、そんなことにならないようにということも考えておりますけれども、なかなか今日の社会の中では親子の問題、家庭の問題という

のは、私たちが想像する以上にいろんな悩み、問題がございます。そういう意味で結婚があったり、離婚があったり、また、その中で家庭内暴力とかいろんな社会事件が起きていると。これをやっぱり少しでも減少したり解消したりしていくのが行政の務めだというふうに思っております。これからも行政として多岐にわたり観光だとか農業だとか福祉だとか、いろんな問題を含めて、行政として総合的に対応していきたいなと思っております。それがやっぱり強いては自分の地域に自信と誇りを持って、そして安心してこの地域にお暮らしできるということにつながっていくのではないかと思っておりますので、人口減少とかそういうこと、いろんなこともありますが、まずやっぱりお一人おひとりが自分の人生に潤い、あるいは安心していただけるような、そんなことを行政としてこれからも努めてまいりたいと、こんなふうに思っております。

以上です。

**議長（小淵茂昭君）** 制限時間となりましたので、12番 小林克彦君の質問を終わります。

ここで議場整理のため、11時まで休憩します。

(休憩) (午前10時53分)

---

(再開) (午前11時00分)

**議長（小淵茂昭君）** 休憩前に引き続き会議を開きます。

---

**議長（小淵茂昭君）** 5番 西宗亮君の質問を認めます。

5番 西宗亮君、登壇。

(5番 西宗亮君登壇)

**5番（西宗亮君）** 5番 緑水会 西宗亮でございます。

早いものできょうから師走、ことしもあと1カ月となりました。

さて、先月21日に町内4小学校、6年生全員による子ども議会が初めて開催されました。実際は大分前ですが、1回開催されたので2回目だそうです。私は初めての傍聴体験でした。議会からの要請で開催していただいた子ども議会であり、準備に運営にと携わった先生方や多くの関係者に敬意を表し評価させていただくところでございます。

一般質問に当たられた6年生諸君も質問事項の検討、調査など、日ごろの勉強、学習とは少し様子が異なり、さぞ大変であったのではないかと推測いたしました。質問や要望も身近で足元のことから、夢の持てる我が山ノ内の将来のことまでさまざまでありましたが、いずれも未来ある6年生が思い、考えた率直で素直な課題であったと感じました。

子ども議会を通してより多くの方々が我が山ノ内町の現状をより認識して、町政に、そして山ノ内町議会に少しでも関心を持って、身近なものであることを感じていただければと素直に思い、また、子ども議会を経験した諸君が10年、20年、30年後には、何人かでも我が町の議会人になって活躍いただけることを期待したいところでございます。

それでは、通告に従い質問をいたします。

1、観光交流人口増対策について。

- (1) 当町における実宿泊者数はどのくらいと把握されているか。
- (2) 当町における平均泊数はどのくらいと考えているか。
- (3) 平均泊数をふやすことも重要と思うが、どのように考えるか。

2、中学校グラウンドと外周道路の改良について。

- (1) 中学校グラウンドの現状をどのように見ているか。
- (2) グラウンドの改良や整備は早急に行う必要があると考えるが、取り組む考えは。
- (3) 中学校外周道路の現状をどのように見ているか。
- (4) 部活動の安全確保からも外周道路、隅切りの拡幅などが必要であると思われるが改善に取り組む考えは。

3、和田県営住宅について。

- (1) 和田県営住宅の現状と町の対応は。
- (2) 居住者（町民）への支援策は。

以上、再質問は質問席にて行います。

**議長（小淵茂昭君）** 答弁を求めます。

竹節町長、登壇。

（町長 竹節義孝君登壇）

**町長（竹節義孝君）** 西議員のご質問にお答えいたします。

まず、1点目の観光交流人口増対策について3点のご質問をいただいております。

本年3月に策定いたしました第3次山ノ内町観光交流ビジョンの展開方策におきましても、魅力的な観光地づくりの中で年齢別や性別など、個別の観光客層に応じた各種体験メニューや観光ルートの設定、または朝市や自然観察会、町並み案内など宿泊者が外出し地域の中を楽しめる仕組みづくりなどに取り組むこととしており、地域の資源を生かしながら、一日でも多く滞在し宿泊していただけるよう工夫したり、観光客ニーズを大切に広域観光も大切に組み込んでまいりたいと思っております。

なお、西議員も前職でご承知かと思いますが、正確な観光ニーズの把握というのは大変難しい状況でございますが、現在、町として宿泊者数は約140万人と報告され、観光統計上1泊は2人とカウントされ、そこに日帰り客を加味しますと観光客数は統計上460万人となっております。

詳細につきましては、観光商工課長からご答弁申し上げます。

次に、2点目の中学校グラウンドと外周道路の改良について4点のお尋ねをいただきました。

学校教育環境の整備は、緊急かつ計画的な路線から順次整備をしていることをご理解いただきたいと思っております。道路整備につきましては、地元要望を含め改良箇所など全町の計画で進めてきており、町道統中線につきましては、要望を受け部分改良もいたしました。



詳細は教育長からご答弁申し上げます。

次に、3点目の和田県営住宅について2点のご質問ですが、県営住宅であり、県として老朽化に伴い、今後見直しを行いながら順次用途廃止も含め検討されているとのことでございます。詳細につきましては、建設水道課長からご答弁申し上げます。

以上でございます。

**議長（小淵茂昭君）** 観光商工課長。

**観光商工課長（小林広行君）** お答えします。

観光交流人口増対策について3点のご質問をいただいておりますけれども、関連しますので一括してお答えします。

まず、1点目としまして、実宿泊者数につきまして、県の観光統計調査における平成27年の結果は137万6,000人でございます。

2点目としまして、平均泊数でございますけれども、三観光地それぞれ観光目的や客層によって過ごし方の違いはありますけれども、湯田中、渋温泉郷で約1.9泊、志賀高原、北志賀高原では約1.5泊から1.6泊でございます。全体では約1.7泊でございます。

3点目の平均泊数をふやすことについてですが、西議員のおっしゃるとおり泊数をふやすことや滞在時間を伸ばすことは非常に重要であります。泊数をふやすことは滞在日数をふやすことと比例し、旅館、ホテルの宿泊施設だけでなく町内の観光施設、飲食店、土産店ほか商工業の皆様にも大きなメリットがあります。そのためにはいかに宿泊数をふやしてもらうか、滞在時間を延ばしてもらうかということが重要な点だと思っておりますが、お客様が訪れた観光地から次の場所へ、そして、また次の場所へと2日、3日かけて周遊を促す工夫が必要だと考えております。町では6月に中野市、小布施町と協働して360度観光PR動画を作成し、国内外に発信して、広域連携による観光エリアとしての相乗効果を期待するところでございます。

また、信越自然郷でも周遊バスを運行したり、平成29年度には周遊タクシーの商品造成を行う予定でございます。町が関係するさまざまな広域連携の組織でも周遊観光事業に積極的に取り組まれております。また、長電バスでは飯山駅発着のバス事業者間で協力し、相互に乗りかえることができる周遊券が発売されることから、スキー、スノーボードのお客様の利用増加に向けて、町でも積極的にPRしてまいりたいと考えております。

このように町内に宿泊して地域を周遊してもらうことと反対に、町外へ訪れたお客様にも山ノ内町を周遊していただくといった、相互乗り入れによる観光交流人口の増加に努めてまいりたいと考えております。

以上です。

**議長（小淵茂昭君）** 佐々木教育長。

**教育長（佐々木正明君）** （1）番、中学校グラウンドの現状についてですが、グラウンド入り口やバックネットのホームベース付近は、特に低いようで雨が降りますと水たまりができております。学校の保護者アンケートでは、部活加入の一部保護者から改善の要望をお聞きしてい

るところでございます。

(2) 改修整備の取り組みについてですが、毎年、補修として砂入れを行っておりますが、抜本的な対策としては暗渠排水設備等大規模な改修が必要と思われれます。時期を見て計画に組み入れていきたいというふうに考えております。

(3) 中学校外周道路の現状でございますが、中学校南面を除き交通量が比較的少ない生活道路ということであります。北側道路は地元要望から学校用地を提供しまして、建設水道課において部分改良をいたしました。学校では部活のランニング練習でこの道路を利用しており、幅員の狭い道路ではドライバーから注意を受けることもあるということでございます。

(4) 部活動の安全確保からも外周道路、角切りの拡幅などが必要であると思われるが、改善に取り組む考えはということについてでございますが、学校としては、安全な道路であるにこしたことはないということでありますが、生徒に交通安全指導を徹底するなどして、現状道路を利用させていただきたいというふうに思います。

以上です。

**議長（小淵茂昭君）** 建設水道課長。

**建設水道課長（鈴木隆夫君）** それでは、3番、和田県営住宅についてでございます。

まず、(1)の和田県営住宅の現状と町の対応はについてでございますが、和田県営住宅の現状は現在、11棟35戸でありまして、うち18世帯が入居中というふうに聞いております。老朽化に伴う用途廃止の方向とのことですが、今後の方針につきましては、本年度から10年後までの県営住宅プラン2016という計画の中で定義づけられております。

内容は県でつくりましたものですから、詳細には理解しておらないところでございますが、平成何年に閉鎖されるとか、取り壊しになるというような内容は盛り込まれていないところでございます。

なお、以前より県からは町へ施設移管の申し入れがございましたが、町営住宅の改修を控えておりまして、老朽施設をあえて取得する意向はないと回答しまして、それ以降は移管に関しての進展や変更はないところでございます。

続きまして、(2)居住者（住民）への支援策はについてでございますが、現在入所されている方についての支援ということになります。今後移転をされるに当たって、町に残り町営住宅に移転を希望される方がおられましたら、その受け入れについては検討いたしてまいるところでございますが、現在、町営住宅も老朽化が進んでいるんですが、町営住宅については余り空き状況がないと、空き室がないというところが続いておりまして、和田県住に住んでいる方が希望なされても、その方々を優先させて移転を約束するということは、今のところ難しいと思っているところでございます。

以上です。

**議長（小淵茂昭君）** 5番 西宗亮君。

**5番（西 宗亮君）** それでは、再質問をさせていただきます。

実は460万人というのは目に見えて数字に出てというふうになっておりますが、その460万人が実際に来ているのかというふうに思いがちでございます。そこでお尋ねしましたらば、約137万6,000人というようなことでございますが、その方たちが連泊されたりというようなこと、それからカウントが1人1泊されれば、それが数字上では延べ利用者では2になるというようなことで、ちょっと数字のマジック的な感じもいたしますけれども、実際には約140万人が実際に頭数としてお越しいただいているということでございます。

それから、泊数については、これはいろいろでございますけれども、実は官公庁の旅行観光消費動向調査では、平成25年は国民1人当たりの平均旅行回数は1.39回、平均宿泊数は2.25泊、旅行1回当たりの平均泊数は1.63泊とありました。当町でも、先ほどおっしゃられた温泉場のほうでの泊数、志賀高原での泊数、それから押しなべて1.7泊というふうにご答弁いただいたようですが、この泊数の算出、あるいは調査には何か根拠になるようなものがあるんですか、お尋ねします。

**議長（小淵茂昭君）** 観光商工課長。

**観光商工課長（小林広行君）** お答えします。

泊数の算出根拠ということでございますけれども、先ほどもちょっと出典を申し上げたんですけれども、県の観光統計調査が出典元でございます。そこには計算方法があるわけでございますけれども、今ここに資料を持ってきておりませんので、かなりいろんな条件を加味して、その泊数を求めているということですので、ちょっと今ここでどういう計算でということはおし上げられませんが、申しわけございません。

以上です。

**議長（小淵茂昭君）** 5番 西宗亮君。

**5番（西 宗亮君）** 確かに統計、あるいは発表というのはいろんなところでやられておりますので、データによりさまざまに多少の差はあるというふうに思いますが、当たらずとも遠からずというような感じでございます。

先ほど申し上げました官公庁の旅行観光消費動向調査で、実はちょっと興味深いのが「行ってみたい旅行タイプは」というのが温泉旅行というのが一番だそうです。それから、「行ってみたい旅行先は」というものの一番は北海道だそうです。長野県は第7位にランキングされているということです。そして、長野県観光部の調査によりますと、長野県の魅力は自然が豊富にある、温泉地が多い、四季がはっきりしているが上位のベスト3であります。これまさに山ノ内のことを言っているような気がいたしますけれども、観光商工課長はどんなふう感じられますか。

**議長（小淵茂昭君）** 観光商工課長。

**観光商工課長（小林広行君）** お答えします。

今、西議員がおっしゃられたとおり、山ノ内町には自然があります。そして、また、かなり多くの温泉がございます。そして、四季折々の季節感のある自然がございます。全て山ノ内町

に該当しているというふうに思っております。

以上です。

議長（小淵茂昭君） 5番 西宗亮君。

5番（西 宗亮君） 私も本当にそういうふうに思います。それほど恵まれた山ノ内というふうに思います。加えて私たちのこの山ノ内にはどこにも負けないおいしい果物、それから、世界的に知られるスノーモンキー、そして、町全体がユネスコエコパークであるということも特筆されることではないかなというふうに思います。

私は、先月13日の日曜日、久々に湯の郷まるごてら号の最終日に乗ってみました。天気にも恵まれて、おかみのガイドで最盛期のリンゴ農園や上林の紅葉など、約2時間にわたりおかみに案内をしてもらって町内を満喫することができました。お客さんは私たちを除いて15人ほど乗っておられて大変満足されておられました。このまるごてら号については、町長もご自身でガイドをされたこともおありです。副町長はこのまるごてら号にお乗りになったことはございますか。

議長（小淵茂昭君） 柳澤副町長。

副町長（柳澤直樹君） 大変残念ながら、まだ乗ってはおりません。

以上です。

議長（小淵茂昭君） 5番 西宗亮君。

5番（西 宗亮君） 観光商工課長はいかがでしょう。

議長（小淵茂昭君） 観光商工課長。

観光商工課長（小林広行君） 私も出発式等には行っていますが、実際には乗っておりません。

以上です。

議長（小淵茂昭君） 5番 西宗亮君。

5番（西 宗亮君） 副町長と観光商工課長だけでなく、関係する大勢の皆さんには、次の機会にはぜひ体験していただければというふうに思います。

過日の子ども議会では、景品つきスタンプラリーによる町内観光スポットめぐり、あるいは温泉街をイルミネーションで飾りにぎやかに楽しく歩けるように、また、現在の社会体育館を解体して平和観音とあわせた公園化、それから、さらに外国人向け案内板の充実、そして、リンゴを世界に向けてアピールするなど、非常に多くのさまざまな意見やアイデアが、子供の目線で率直な我が町の観光振興に対する発言がありましたが、観光商工課長はこれをどのように受けとめられましたか。

議長（小淵茂昭君） 観光商工課長。

観光商工課長（小林広行君） お答えします。

新鮮な子供たちの目を見た山ノ内町の観光の提言をいただいたというふうに考えておりました、可能性として高いものもありますし、ちょっと難しいなというものもございました。子供の意見だからといって検討しないということではなくして、貴重な意見として観光商工課とし

でも検討するものもあったというふうに考えております。

以上です。

**議長（小淵茂昭君）** 5番 西宗亮君。

**5番（西 宗亮君）** そのときの答弁も含めてですけれども、いろいろ今まで質問あったことに関してもやってきたこと等もある。特に、世界のリンゴ料理フェアであるとかいろいろなイベント等もやってきている。今もやっているものもある。ただ、私が思うにそれぞれがどうも単発のイベントやら何やら、あるいは案内になってしまっているのではないかなという気がいたします。これだけ多くのすばらしい素材がある山ノ内ですので、当然、その時期だとかそのときというものはありますけれども、それらを組み合わせたモデルコース、特に2泊滞在型のモデルコース、これを設定してどんどんアピールする必要があるというふうに思いますが、観光商工課長、いかがでしょうか。

**議長（小淵茂昭君）** 竹節町長。

**町長（竹節義孝君）** 小学生の提言、それから皆さん方、あるいは観光連盟、いろんな皆さんからのいろんなご提言をいただいたり、業界の皆さんからもご提言いただいたり、そういったことについて、例えば観光面では観光連盟の皆さんと相談したり、あるいは農業面では認定農業者の皆さんと相談したりしながら、いろいろやってきているのも事実でございますし、ただ、そういう中で先ほど西議員がおっしゃったように、いろんなものが山ノ内町にあるというふうにおっしゃられまして、私も阿部知事が台湾へ行くからぜひ同行してほしいということをおっしゃられまして、高雄の高級女子中学へ行きまして、子供たちに知事さんのほうから長野というとういうイメージが持たれますかというふうに言ったら、皆さんが1つは温泉、次にリンゴ、スキー、スノーモンキー、この4つが、そういつて高級女子中学で出されました。

帰って来て早速それを町の観光パンフだとか町の観光の袋、それからトウガラシだとかいろんなところのグッズに、それをピクトグラムにして入れてやったと。知事さんのほうで全部あるのは山ノ内しかないよね。よそでは温泉があつたり、あるいはスキーがあつたり、リンゴがあつたり、あるいは複数ありますけれども、スノーモンキーというのは唯一町のものでございますから、そういう意味では全部あるのが山ノ内だということで、非常にそういう意味では山ノ内町は多くのニーズに応えられる観光地だということで、そういう意味でいろいろ真剣に業界の皆さんと取り組んでいるという状況でございます。

ただ、なかなか続けていく中でいろんな問題がございます。例えば湯けぶりウオークを続けてきたけれども、250人前後から意外と伸びないと。こんなことがありそれを今度はなければ自転車にするということで自転車にし、同じ自転車にしましたら、町内の自転車で回ってそういうふうにおいしいものを食べたりいろんなことをしたんですけれども、これではつまらないと。もう少しハードな自転車でなきゃだめだと。それで今、志賀高原ロングライドに移しております。そのロングライドもまだつまらないと、ヒルクライムをどうしても入れてほしいと、こういうことになってきておりまして、今、警察のほうとも何とかことしから入れたいと思

って進めてきたんですけれども、まだ警察のほうのご了解をいただけませんけれども、そういうようなことをずっとやってきておりますけれども、やっぱりそのときそのときの時代のお客様のニーズや、そのときのいろんな状況を踏まえながら、町としても精いっぱい取り組んできているという、そういうつもりではおりますけれども、ただ、あれをやれば絶対ヒットするか、これをやれば特効薬になるというのがなかなかないということでございます。できるだけこれからは広域観光を中心に重点を置きながら、山ノ内だけでなくして地域全体でこの地域が潤うようなことを考え、そのリーダーシップをとっていくのがやっぱり私は山ノ内町ではないかなと思っておりますので、小布施や中野だけでなくして信越自然郷、そういったところとも都度いろんな提言をしながら、そして、なかなかそこでやっていただけないものについては、御宿便だとか楽ちんカーサービスだとか、町独自でやりながら何とかお客様のニーズを大切に、おもてなしの心を大切にしながら取り組んでいきたいなと思っております。

特に、来年は信州デスティネーションキャンペーンが7月から9月まで開催されます。私ももこれにはもう何としてでも力を入れて頑張っていきたいなと、こんなことで県のほうへも職員1名を派遣し、そこで十分ノウハウを、あるいは人脈をつかんだ中で、この信州DC含めた町の観光振興を図っていきたいという、そんなつもりでそれぞれこれからも取り組んでいきますし、また、いろんな立場でご支援、ご提言いただければありがたいと思います。

以上です。

**議長（小渕茂昭君）** 5番 西宗亮君。

**5番（西 宗亮君）** おっしゃるとおりだと思います。時代、時代に合ったイベント、企画、これが必要だと思います。

ところで、ここに大変立派ないろいろなパンフレットがございます。それから、町もホームページで観光情報をたくさん流しております。そこに何か参考になるようなモデルのコースというのはございますか。

**議長（小渕茂昭君）** 観光商工課長。

**観光商工課長（小林広行君）** お答えします。

当町で発行しているパンフレット、あるいは観光連盟、志賀観光協会等で発行しているパンフレット、チラシ等、いろいろあるわけがございますけれども、今、西議員がおっしゃられた周遊的なモデルコースという意味だと思いますけれども、町内の周遊コースのモデルについては掲載がございませんが、例えば遊歩道の関係のモデルコース、そういった町内における個別の目的に合うそういったモデルコースというのはございます。

以上でございます。

**議長（小渕茂昭君）** 5番 西宗亮君。

**5番（西 宗亮君）** このパンフレットを見ても、なかなかちょっとモデルコースというのは余りよくわからない、見つからない。それから、ホームページを見てもどうも見当たらない。ところがお客さんはここへ来てからでさえ、どこかへ行くとところありませんかというようなこと

を言われるというようなことも耳にしております。先ほどおっしゃられた実宿泊人員、これを何とかそういうことでもって2泊してもらったとするならば、これ机上プランの夢物語ではありませんけれども、目標に掲げているその550万人、これに一步でも近づくんではないかというふうに思いますので、ぜひその滞在型モデルコース、これを設定してどんだんアピールしていただきたいということを申し上げて、次の質問に移ります。

中学校のグラウンドの関係でございます。

余談ではありますが、この後の質問に関連しますのでお尋ねいたします。

よく3日に一度は雨が降るといふふうに言われますけれども、実際にはそんなに降っていないようでございます。ところで、教育長、日本で一番雨の日が多い県というのはどちらかご存じですか。

**議長（小淵茂昭君）** 佐々木教育長。

**教育長（佐々木正明君）** よく存じ上げておりませんが、多分、和歌山県あたりかなというふうに思います。

以上です。

**議長（小淵茂昭君）** 5番 西宗亮君。

**5番（西 宗亮君）** 実は、石川県だそうです。その次が鳥取、富山、福井、長野県は物すごく雨が少ない県だそうです。そんなことから北陸では弁当を忘れても傘忘れるなということが言われる、それがゆえんかなというふうに思います。雨というのは山ノ内町は特に観光と農業の2大基幹産業でございますので、農業にとっては適切な量の雨というのは自然の恵みで大変必要なものというふうに思います。

1981年から30年間のデータによる、いわゆる30年間の平均です。これでいきますと長野県は日本で一番雨が少ない県だといふふうになっているそうです。年間約31日、つまり12日に1回しか雨が降らないということだそうです、実際にはいかがなものでしょうか。

それで、我が町には小・中学校合わせて5校があります。当然、グラウンドも5つあるわけでございますが、雨の翌日、それぞれのグラウンドはどんな状況になっているかということとはごらんになられたことございますでしょうか、教育長、いかがでしょう。

**議長（小淵茂昭君）** 佐々木教育長。

**教育長（佐々木正明君）** 運動会の前日に降ったと、そういう場面に出くわしたことがあります。南小学校では半分は非常に水はけがよいと、ただ、半分は悪いというところがございます。西小学校におきましても、少年野球、少女ソフト等で雨の翌日、開催できるときもありますし、開催できない、そういう状況になることがあります。

いずれにしても、雨量によってそれぞれの学校が一応その砂を入れたり、水はけがよいようにしているところがございますが、その雨の量やあるいは整備状況によって差異はあるということは私も見ております。

以上です。

議長（小淵茂昭君） 5番 西宗亮君。

5番（西 宗亮君） 確かにおっしゃるとおり雨の量、それから連続して雨が降る、こういうような悪状況によって大分変わってきますけれども、実は、先ほど教育長もおっしゃられました、特に山ノ内中学校のグラウンド、けさなんかもそうですけれども、特に野球をやるダイヤモンドですか、そここのところの水はけが非常によくない。私はいやが応でも毎日何回となくグラウンドを見るようなあれでございますけれども、例えば週末近い木曜、あるいは金曜に雨が降った週末の土曜、日曜、どんな光景かというのはご存じでしょうか、教育長、いかがでしょう。

議長（小淵茂昭君） 佐々木教育長。

教育長（佐々木正明君） 実際にそのような場面を目で見たことはございませんけれども、野球の練習等で保護者の方がスポンジで水をすくっているというそういう状況をお聞きしたことはございます。

以上です。

議長（小淵茂昭君） 5番 西宗亮君。

5番（西 宗亮君） そうなんです。申し上げたいのは、そここのところだったんですけれども、実際にはごらんになったことがない。ちょっとその光景を目をつぶってずっと想像していただきたい。多分、野球部の保護者の方だとは思いますが、お一人です。あるいは場合によっては子供さんと2人で黙々とスポンジで吸い取ってバケツに入れて、それを吐く、何回も何回も何時間も繰り返している。これはこれでいいんですか、教育長どうでしょう。

議長（小淵茂昭君） 佐々木教育長。

教育長（佐々木正明君） 決して好ましくはないというふうに思っています。

議長（小淵茂昭君） 5番 西宗亮君。

5番（西 宗亮君） だったら何とかしましょうよ。先ほどおっしゃられたように、部分的なそのときのことは砂を入れれば、ある程度はどうにかなるかもしれない。ところが、それは何年も続いているんです。先ほどおっしゃられたように、大きな工事をしなければならない。過日、公開で行われました総合計画審議会、この中で新規事業として挙げられている中で、中学校長寿命化改修事業が、29年度は設計ですけれども、事業としては30年度に5億5,000万円、31年度に5億2,000万円が計上されています。お尋ねしたならば、グラウンドはこの中に入っていない、考えていないということであったんですけれども、中学校、学校の長寿命化ということに関しては、これは部活でも授業でもいろいろ使う。そのグラウンドも含めて学校の施設ではないかというふうに思うんですけれども、そんなことからその事業にはグラウンドも含めて取り組むべきというふうに思いますが、これは町長、どういうふうに思われましょうか。

議長（小淵茂昭君） 竹節町長。

町長（竹節義孝君） 学びやをやっぱり整備するというのは国の方針でもあり、それを受けて町は国県補助、有利な起債、そういったものを活用して対応していくという。その法律の年限も



あったりしますので、その中でそれぞれ対応しております。

グラウンドにつきましては、私も昔、夏祭りやなんかをあそこでやったとき、清水アキラさんのスポーツ音頭ですか、そのお祭りをやったときはちょうどそういう場面に出くわしたこともありまして、みんなで真剣にスポンジでそれを除去して、そして、なおかつ砂を入れたという、そういう中でスポーツ音頭の発表会をあそこでやったりと、あのときの記憶が結構鮮明に残っておりますけれども、ただ、教育長が在職中、中野市の中野平小学校のグラウンドを特殊なグラウンドにしたということで、私もちょっとそのとき教育長が当時、中野の校長としての立場で見て、ああこういうのを山ノ内町でやればいいのだなんてことも、そのときは感想として持ちましたけれども、正直申し上げまして、まず、学びやを整備したり、各小学校の耐震、要するに授業中に何かあればこれはいけないということがございますので、そんなことを今進めさせていただいております。

決して学校だからおろそかにするとかそういうことではございませんで、それによって多少の不便があったり、また、みんなで協力してそういったことをやったりしながら、自分たちのそういう部活に十分活用できるように教育委員会、あるいは学校のほうでその時々に対応しながらやっていただいているというふうには思っておりますけれども、また、当面はそういったことを重要視し対応しますけれども、決して無視するということではございませんので、ご理解いただきたいと思えます。

**議長（小淵茂昭君）** 5番 西宗亮君。

**5番（西 宗亮君）** お気持ちはよくわかります。しかし、やっぱり授業でも使い、部活でも使い、大変利用度が高いところでございますので、費用は大変かかるとは思いますが、ぜひ取り組んでいただくようお願いをしたいと思います。

それから、外周道路の関係でございますけれども、これにつきましては車も通り、部活のトレーニングでも緊急車両も通る。道路に側溝はないというような状況で非常に危険な感じもいたします。ただ、これは公私混同というふうに誤解されても大変不本意な案件でございますので、これは付近の住民の方から強い声が出ているということだけおつなぎをして、次の質問に移りたいと思えます。

昨年7月、和田県営住宅に住む居住者に対しまして、県のほうから5年をめどに明け渡してほしいというふうな要請があったと聞きますけれども、ここら辺の事実関係はいかがでしょうか。町ではそこら辺の事実関係、つかんでおられますでしょうか、いかがでしょうか。

**議長（小淵茂昭君）** 建設水道課長。

**建設水道課長（鈴木隆夫君）** そこに居住されている方にそういうことがあったということは存じておりませんが、前は和田県営住宅に空き家が出ると、町が中心となって有線放送などの広報をしておりましたので、その広報が最近はずっとないということがございますので、現在のところ和田団地と県では呼んでいますが、和田県営団地については募集停止をしているという事実だけつかんでおります。

以上です。

**議長（小渕茂昭君）** 5番 西宗亮君。

**5番（西 宗亮君）** そうですね、今現在、募集を停止されております。県で伺いました。北信地方事務所管内で中野市の東町団地、それから山ノ内町の和田団地、これはその対象として募集は停止しているということでございます。そして、和田県住の方につきましても、移転先として中野、それから飯山、こちらのほうの県営住宅を紹介している。しかも転居費用も出すというようなことでございますが、当初、その方向になった昨年の7月31日現在、和田県住地区には23世帯46人が住んでおられました。1年たった現在、先ほど18世帯がお住まいだというふうにご答弁の中でおっしゃられました。10月31日現在では19世帯37名というのが町のホームページのほうで出ておりました。この差と申しますか、転出された方々はどこへ転出されたか把握されておりますか。

**議長（小渕茂昭君）** 建設水道課長。

**建設水道課長（鈴木隆夫君）** お答えします。

転出先については承知してございません。

以上です。

**議長（小渕茂昭君）** 5番 西宗亮君。

**5番（西 宗亮君）** 私も確認はしておりませんが、地方事務所のほうであつせん、紹介したということからすると、町外、つまり中野の県営住宅か、あるいは飯山の県営住宅かというふうなことが推測されるわけでございますけれども、その差、何名かは町外へ出られた、人口が減ったというふうなことになろうかと思えます。これは自分の事情ではなくて、外からの要因でそういうふうになったと感ずるわけでございますけれども、そこら辺の人口減、それから、外部要因から不本意ながらも出なきゃならないというようなことに関して、町長、その住んでいらっしゃる方たちのお気持ちというのはどういふふうに思われますか。

**議長（小渕茂昭君）** 竹節町長。

**町長（竹節義孝君）** それぞれ事情があつて和田県住にお住まいになられたんだろうというふうに思います。やっぱり昔から住めば都じゃないですけども、自分が居を構えた和田県住というのは大変自分にとっては大切な思い出のあるそういう場所ではないかなと思っております。そういう中でそれぞれ県のほうの諸般の事情で、今募集を停止しているということをお聞きしましたし、かといってそれが町営住宅があいていればそちらへお越しいただくのも結構だろうと思えますけれども、町内の住宅事情を私自身も十分把握してございませんけれども、できるだけ皆さんがそういうお話を聞きましたので、県のほうの対応についても確認し、皆さん方に不安になっていただかないようなことも、県のほうでご配慮いただくようなこともご要望していきたいなど、こんなふうに思います。

**議長（小渕茂昭君）** 5番 西宗亮君。

**5番（西 宗亮君）** ぜひそんなふうにお願いしたいと思います。

特に、和田団地に住まわれている方たちは割合ご高齢の方、それから、そういつては失礼ですけれども、割合低所得の方というのが大半であります。毎日、その不安を覚えながら、できれば移りたくないという声が聞こえてきます。たとえ山ノ内町の1地区、あるいは町民の一部であったとしても、ぜひそういうようなことで寄り添って支援の手を差し伸べてこそ、温もりのある我が郷土と言えらると思うんですけれども、ぜひ県のほうへもより長くいられるように働きかけていただくなど、対策、支援をとっていただきたいと思いますが、最後に町長のご所見を再度確認を兼ねてお尋ねして質問を終わります。

**議長（小淵茂昭君）** 竹節町長。

**町長（竹節義孝君）** 先ほど申し上げましたとおりでございます。いずれにせよ、縁あって山ノ内町へお住まいいただき、そして、山ノ内町の町民の一人として、町としてもいろんな部分で配慮していかなくちゃならないなというふうに思っています。そういう意味で今、西議員がおっしゃられたとおり、町営住宅もどちらかという福祉住宅的な要素があるのでということで、本当は新しいものを建てれば一番いいんですけれども、それをそうしないで県の住宅供給公社にお願いし、改修が終わったら買い取るということで、できるだけ同じところにお住まいいただくような、そんな町としては配慮をしてきたつもりでございますし、そういう意味では町営住宅、県営住宅というのは、どちらかという福祉住宅的な要素が強いなど、こんなふうに考えておりますので、先ほど申し上げましたとおり、また、主管課を通し県のほうへもいろんな内容を確認させていただきながら、ご配慮いただくように要望していきたいということでございます。

以上でございます。

**議長（小淵茂昭君）** 5番 西宗亮君の質問を終わります。

ここで昼食のため、午後1時まで休憩します。

(休憩)

(午前11時49分)

---

(再開)

(午後1時00分)

**議長（小淵茂昭君）** 休憩前に引き続き会議を開きます。

---

**議長（小淵茂昭君）** 2番 山本光俊君の質問を認めます。

2番 山本光俊君、登壇。

(2番 山本光俊君登壇)

**2番（山本光俊君）** 2番 山本光俊です。

本日より12月に入り、本格的な冬のシーズン到来を期待しておりましたが、予想外の暖かさに驚き不安な気持ちであります。昨シーズン記録的な雪不足を経験したことで、その記憶が色濃く残っておりまして、そんな年が続くわけではない、要らぬ心配だと思いつながらも、自然の営みの前に人の力が無力だった昨シーズンを思い出し、そんなことを考えても仕方ないとわかっ

ていながらも、つい余計なことを考え思い悩んでしまいます。

また、このことだけではなく、ここ数年苦慮し思い悩む場面が多々ございます。それは刻一刻と変わる環境、観光業態、消費者ニーズに対しフレキシブルに、そして迅速に対応すべきという論調と、その地域に根差した先人が長年にわたり築き、継承してきた歴史と合意形成の経緯の中で、先ほど述べた変わる環境、消費者ニーズとその情勢から、要望にどのように対応すればよいのか。単純な表現ですが、よいものはよいことなのだから他に先んじて何でも実施するという思考と、よいことはわかるが過去のさまざまな議論や経緯の上で実施しない判断をするという相対する2つの思考がぶつかる場面がここ数年非常に多いと感じます。結果的に前者のほうは急伸的で魅力的とも言えますが、ある種利己的であり、場当たりのともいえ、ゆえに短絡的な思考をしがちで、運よく成功する場合があっても、その後、分裂や頓挫をし長続きしない確立が高い。後者については、保守的で結果として行動はせず沈滞しており前進できていない。

最近、さまざまな団体の会議では地域の合意形成を条件、重要視する傾向にあります。しかし、合意形成の議論の前に過去の同種の議論内容、経緯と結果、それが地域に根差し生きているのか、形骸化して機能していないのかを見定め、その前提に立ち合い合意形成の議論を始めること、また、合意形成の上で事業の結果は必ずPDCAサイクルに基づき検証することが重要であると思います。

同時に、地域にとっての中長期ビジョン、いわゆる戦略の設定とそれに基づく事業、戦術とその思考が必要であることにも気づきます。現在、山ノ内町観光連盟がこの町の地域DMOとして登録の準備を始めております。過去の検証、現状の精査、それを踏まえこの町の将来的な戦略を立て、その上で戦術を思考する必要があるのではないかと感じております。また、設立した後はほかの地域がやっているから、みんながよいことだと言っているから、早くしないと間に合わないからなどの安易な提案をやみくもに議論、合意形成をするのではなく、その前によいと言われる提案の本質をつかみ、その事業がこの町の戦略に見合う戦術なのかを判断してからの上程、議論、合意形成がこれから必要だと思っています。

それでは、通告に従い質問をさせていただきます。

1、信越自然郷について。

- (1) 信越自然郷の概要は。
- (2) どのような会議、事業をしているか。

2、地域おこし協力隊について。

- (1) 当町における地域おこし協力隊の活動内容、成果、評価は。
- (2) 今後の協力隊雇用の方向性は。

3、白根火山入山規制について。

- (1) 冬期のバックカントリー、山スキーなどの規制は。

以上です。再質問は質問席にて行います。

議長（小淵茂昭君） 答弁を求めます。

竹節町長、登壇。

（町長 竹節義孝君登壇）

町長（竹節義孝君） 山本光俊議員のご質問にお答えいたします。

まず、1点目の信越自然郷についての2点のご質問についてお答えします。

9月議会において小林民夫議員にもお答えしましたが、信越自然郷の組織であります信越9市町村広域観光連携会議は、北信広域連合、北信地方事務所、飯山市、それぞれが別々に事務局を持っていた広域観光組織を統合して、効果的な事業が行えるようにJRなどの関係機関と相談しながら、平成27年3月の北陸新幹線金沢までの延伸と飯山駅開業を見据えて、広域連携による広域観光を目指すべきと私のほうから関係市町村長に提案させていただき、飯山市が事務局となり平成24年1月に設立した組織でございます。

当初は、北信管内6市町村を基本とした組織を検討していましたが、飯山市の意向によりまして、上越妙高駅周辺の飯綱町、信濃町、妙高市も加えた9市町村とし、JRや県とも連携し飯山駅を起点とした信越自然郷として広域的な観光振興を目指し発足し、積極的に取り組んでいるところでございます。

詳細につきましては、観光商工課長からご答弁申し上げます。

次に、2点目の地域おこし協力隊について2点のご質問をいただいておりますが、当町の魅力あふれる資源を地域おこし協力隊員の活動を通して体感いただき、町外者の新鮮な視点で地域の活性化に取り組みながら、最終的には当町に定住していただけるようお願い、また、話をさせていただき、現在の2名とも山ノ内町民として定住となる旨、当人から伺っております。

また、来年度に向け2名の地域おこし協力隊員を募集し、活動を支援してまいりたいと考えております。

詳細につきましては、総務課長からご答弁申し上げます。

次に、3点目の白根火山入山規制として、冬期のバックカントリー、山スキーなどの規制とのご質問でございますが、かつて志賀万座ツアーコースでは、原田知世さん、三上博さん主演の「私をスキーに連れてって」で注目を集め、後にスキークラブでも後押ししてきた人気コースであります。また、竜王越えのツアーコースも人気がありました。最近では、スノーシューで旭山や一の瀬せせらぎコースを歩くといったゲレンデスキー以外の楽しみ方も積極的に宣伝している経過がございます。ルールを守って安全に楽しんでいただくことが基本であります。近年、外国人が新雪を求めコース外を滑り遭難事故、死亡事故が発生し、遭対協やスキー事業関係者の協力を得て看板やロープの敷設を行ったり、ホテル関係者へも事故防止のPRに努めているところでございます。

なお、規制とのことですが、関係者のご意見を十分お聞きし、改めて対応を協議していきたいと思っております。

詳細につきましては、観光商工課長からご答弁申し上げます。

以上です。

**議長（小淵茂昭君）** 観光商工課長。

**観光商工課長（小林広行君）** お答えします。

1の信越自然郷についてとしまして、2点のご質問をいただいておりますけれども、関連がありますのでまとめてお答えをいたします。

この組織につきましては、北陸新幹線飯山駅開業を控え、沿線の観光地全体の振興を目指し、平成24年1月に信越9市町村広域観光連携会議が発足し、翌年3月に信越自然郷という地域名とされたものでございます。

飯山駅の所在地であります飯山市が事務局となっております。当町のほか飯山市、中野市、木島平村、野沢温泉村、信濃町、飯綱町、栄村、そして新潟県の妙高市、全部で9市町村で構成されております。

開催される会議につきましては、総会、担当課長等による幹事会、そのほか専門的事項について検討する部会が開かれております。本年度の事業内容につきましては、1番目に日本版DMOの構築と事業推進、2番目として広域旅行商品の開発と販売、3番目に信越自然郷のブランディングとプロモーション、4番目に信越自然郷における長野モビリティのための環境づくり、5番目に二次交通等観光インフラ整備充実といった項目について事業を進めております。

続いて、3番目の白根火山入山規制について、（1）冬期のバックカントリー、山スキーなどの規制はとのご質問ですけれども、長野県北信地方事務所が事務局となっております北信地区スキー場安全対策協議会、志賀高原観光協会、旅館組合、索道協会、スキー場事業者、志賀高原地区遭対協等と連携を図り、危険箇所への立ち入り禁止の目印設置や広報、及び注意喚起のチラシ等により周知してまいります。

また、草津万座ツアーコースは規制外ということでございますので、登山計画を提出することになっております。関係者のホームページやチラシ等を含めて周知を図ってまいります。

以上でございます。

**議長（小淵茂昭君）** 総務課長。

**総務課長（柴草 隆君）** お答えいたします。

2の地域おこし協力隊について2点のご質問ですが、まず、（1）当町における地域おこし協力隊の活動内容、成果、評価はとのお尋ねにつきましては、当町では平成25年度から本年度までに3名の地域おこし協力隊員を委嘱しております。3名の協力隊員においては、農業振興や移住・定住促進支援、町行政の広報や観光情報発信、ユネスコスクールにおける環境教育支援など多岐にわたり活躍いただいております。今日までの活動を高く評価するとともに、任期の残された隊員にはさらなる活躍を期待申し上げるところでございます。

（2）の今後の協力隊雇用の方向性はとのお尋ねにつきましては、ユネスコエコパーク業務に従事された協力隊員は一定の成果が得られたことから、任期中ではありましたが退任され、農林課配属の協力隊員も11月末をもって3年の任期満了に伴い退任となりました。町といたし

ましては、平成29年度においても6次産業化の推進による農業振興やユネスコエコパーク関連の活動に携わっていただく地域おこし協力隊員を引き続き募集する予定であり、今後とも制度の活用を図ってまいりたいと考えております。

以上でございます。

**議長（小淵茂昭君）** 2番 山本光俊君。

**2番（山本光俊君）** それでは、再質問をさせていただきます。

まず、信越9市町村連絡会議についてですが、この連携会議において信越自然郷の各種事業が展開されているわけですが、この会議の組織図を見ますと、首長会議、役員会、ワーキンググループのほか事業推進部会、観光振興部会、交通アクセス案内所部会、受け入れ態勢整備部会の4部会から構成をされており、それぞれのテーマに沿って協議をしているようですが、首長会議についてはわかりますけれども、このワーキンググループ、それから4部会は町としてはどの部署のどのような立場の方が参加をされているのでしょうか。

**議長（小淵茂昭君）** 観光商工課長。

**観光商工課長（小林広行君）** お答えします。

ワーキンググループにつきましては、私担当してからは多分開催されていないかと思いますが、事業部会につきましては、観光商工課の観光商工係長、そして観光商工課ではありませんが、観光連盟の事務局次長が出席しております。それと先ほど山本光俊議員が4つの部会と申されましたが、現在は事業部会と総務部会の2つの部会となっております。総務部会も同様の人間が出席をしております。

以上でございます。

**議長（小淵茂昭君）** 2番 山本光俊君。

**2番（山本光俊君）** すみません、ちょっと情報に誤りがありまして大変申しわけございませんでした。

この各種パンフレットやポスターの製作、それから、事業イベントなどを実施しているようですけれども、これは地域の要望など、この担当者が持ち込んでこのワーキンググループなりそれぞれの部会で提案、検討され実施しているものと考えてよろしいでしょうか。

**議長（小淵茂昭君）** 観光商工課長。

**観光商工課長（小林広行君）** お答えします。

基本的にはそのとおりで、各9市町村がそれぞれ提案をされ、それをまとめていくという、そういう作業を行っております。

以上でございます。

**議長（小淵茂昭君）** 2番 山本光俊君。

**2番（山本光俊君）** この連携会議では、各部会での協議と例えばワーキンググループなどで広域の旅行商品企画や各地域の観光資源のピックアップなどを行っているようですが、この会議への出席者は当町の各地域、各団体、その内容の伝達、確認を都度していらっしゃるのでしょうか。

か。

議長（小淵茂昭君） 観光商工課長。

観光商工課長（小林広行君） お答えします。

山ノ内町のほかに町の観光連盟も出席させていただいているというお話を先ほどさせていただきましたが、ご存じのとおり、観光連盟につきましては、北志賀観光協会、あるいは旅館組合、あるいは志賀高原観光協会、こういったところの団体も傘下に入っておりますので、伝達につきましては、町の観光連盟から行われているというふうを考えております。

以上です。

議長（小淵茂昭君） 2番 山本光俊君。

2番（山本光俊君） そうでしょうかね。ちょっと私の認識では情報がそんなに流れてきていないように感じているんですが、その感覚の違いというのはどんなふうにお考えですか。

議長（小淵茂昭君） 観光商工課長。

観光商工課長（小林広行君） お答えします。

先ほども申し上げましたが、観光連盟の内部の事務の流れにつきましては、観光商工課のほうではそれほど詳しく細かくチェックをしているわけではございませんので、そこまで確認しているわけではありませんが、当然ながら伝達が行われているというふうに思っております。

以上です。

議長（小淵茂昭君） 2番 山本光俊君。

2番（山本光俊君） 各種パンフレット、それから、イベントなどが唐突に配付というか、案内されてというようなことも中にはあるんですけれども、その内容なんですけれども、なぜこの場所の紹介というか、どういう意図でこのイベントと思われるようなものの中にはあるように感じています。このことも会議の出席者の責任によって決定し制定されているということよろしいですか。

議長（小淵茂昭君） 観光商工課長。

観光商工課長（小林広行君） お答えします。

その会議の内容、決定の仕方、そういったものについては、正直私も細かく承知しておりませんけれども、ただ、その会議の中で意見を言わなければ、当然、その自分と意図しないようなことも決定してしまうということがありますので、出席者がそこで意見を言ったり訂正をいただくというようなことはやっているんですけれども、恐らく多数決等で思いどおりにはいかないということも中にはあるのではないかとこのふうには思っております。

以上です。

議長（小淵茂昭君） 2番 山本光俊君。

2番（山本光俊君） この連携会議の事務局を担当しているいいやま観光局がありますけれども、この広域連携に基づき地域連携のDMOにシフトしたとのことですが、このDMO、現在はどんな事業の進捗状況になっておりますでしょうか。



議長（小淵茂昭君） 観光商工課長。

観光商工課長（小林広行君） お答えします。

今、DMOとしての具体的な事業については、どこまで進んでいるかというのはちょっと私は承知しておりませんが、ただ、DMOの事業の一つでありますビッグデータの収集、これについては現在進めているというふう聞いておりますし確認をしております。

以上です。

議長（小淵茂昭君） 2番 山本光俊君。

2番（山本光俊君） このDMOに対して、当町のビジョン、それから方向性というのはどのように考えておられるのでしょうか。

議長（小淵茂昭君） 観光商工課長。

観光商工課長（小林広行君） お答えします。

信越9市町村の事業につきましては、当然、関係する9つの市町村の意向が反映されて初めて事業化されるということがございますので、我々山ノ内町につきましても、やはり先ほど西議員のほうにもお答えしましたとおり、広域で取り組む以上はこの9市町村の管内に多くのお客様が訪れ、そして周遊していただくと、そういったメニューづくりが必要だと思っておりますので、そういった方向に進んでいるかと思えます。

以上です。

議長（小淵茂昭君） 2番 山本光俊君。

2番（山本光俊君） インバウンドを初めにしまして、観光客のニーズは多様化しておりまして、近隣市町村協働での広域連携事業は、今後ますます重要度が増してくるというふうに考えています。この9つからなる市町村連携会議は、大変よい組織でよいことだというふうに思っております。今後、広域の観光振興を図る場合、ビジョンや方針を明確に受け入れの事業を実施する土壌としての基盤整備をすることが大事だと思っています。

この山ノ内町は観光業と基幹産業の基盤整備により、さまざまな実績を上げてきたのですから、そのノウハウを生かして参加する、提案するとともに、広域事業に取り組んでいただけるよう期待をしております。

ただし、今伺いをして、またさらに思ったんですけれども、これが観光団体や地域のコンセンサス、それから要望、要請に基づかない担当者の主観で進行されないようにしていただきたいというふうに考えています。それぞれの担当者、あるいは出席者が一々持ち帰り、団体などを招集して会議を開きコンセンサスを得るということは面倒だったり、手間だったりするわけですが、そこは丁寧に対応いただきたいと思っています。そのことを念頭に置いて、今後の連携会議にご出席いただきますよう申し上げて、次の質問に移らせていただきます。

このたび初めて雇用した地域おこし協力隊の方が3年間の任期を終えられましたけれども、雇用してみて、この3年間の総括、感想というのはどのようにお考えでいらっしゃいますでしょうか。

**議長（小淵茂昭君）** 竹節町長。

**町長（竹節義孝君）** 初めての経験でありまして、どういうふうに最初対応したらいいのかなど。本人と面接し、そして、また本人の希望も受けて、それぞれのやってみたい仕事をお聞きして、募集のときももっと大ざっぱにやってあったんですけども、そういう対応をさせていただきました。

1人は須賀川地区の地域の再生、本人、そちらへ住居も構えて地元の皆さんと結構交流していただいて、最初は大変もろ手を挙げての歓迎だったんですけども、その後、いろんな事業が出てきておりまして、本人も多岐にわたったあちらこちらへ飛んで歩いているという、そういう状況で結構いい人脈を地元の皆さんとつくったり活動してくれたなというふうに、私ども正直、評価させていただきましたので、これから来年度、今度はこの30日、きのうで切れましたので、ちょっと一休みさせていただいて、自分の実家のほうといろいろ1カ月間調整して、できれば引き続き町として移住・定住の支援員として、今まで須賀川地区でいろんなイベントを重ねてきましたもので、そういう形で山ノ内町へ住んでいただくということで、本人もこちらで居を構え、そして、お世話になり、恩返しということもないですけども、きのうも本人といろいろと話ししましたら、町のほうからそういう温かいお言葉をいただいたので、ぜひ私もそういう立場で、今まで培ってきたことを大いに生かしながら、また、山ノ内町の地域のために頑張りたいというふうに本人も言っていましたし、もう1人の方は今現在、まだ勤務中でございますけれども、自分でわざわざ安曇野のほうにお見えになったのに、ご主人もお連れになってこちらのほうで山ノ内町のいろんなところが好きだから、安曇野よりこちらで働いてみたいということで、こちらのほうへ居を構えられ、一緒にお住まいになりながら、町の観光情報を中心にしながら発信させていただいているということで、非常にその方も熱心に行動的に町のいろんなイベントだとかいろんなところへ自分から積極的に出になられて活動されているという、その姿を私自身直接見ておりますので、非常にそういう意味ではよかったなというふうに思っております。

また、そういったのを踏まえながら、来年度はできれば2人採用して、また、さらにそういう皆さんに外からの見た視点で、この山ノ内の活性化、あるいは地域おこしのために活動していただければ非常にありがたいと思って募集する方向で今、要項はほぼでき上がっておりますけれども、また、これから今1カ月ぐらいで募集して、もう1月が来るようなそういう対応をしましたけれども、少し期間を置いて募集をしてゆっくり対応していきたいなど、こんなふうに考えてございますので、いい人材がまた来ていただけることを大いに期待していると、そんな状況でございます。

**議長（小淵茂昭君）** 2番 山本光俊君。

**2番（山本光俊君）** 今は町側のほうの総括というか感想をお伺いしたんですけども、ご本人からこの3年間の総括とか感想というのはお伺いをされてまとめてあるというようなことはございますか。

議長（小淵茂昭君） 総務課長。

総務課長（柴草 隆君） お答えいたします。

毎月の活動につきましては、1カ月分の報告等は上げていただいておりますけれども、今回退任されました地域おこし協力隊員の方から、まだそういう総括というものはいただいたというところはございませんけれども、きのう退任の挨拶で町長のところに来られたときには、いろんな話のほうもさせていただいている、そんなような状況でございます。

以上です。

議長（小淵茂昭君） 2番 山本光俊君。

2番（山本光俊君） 今回、初めての雇用というような中で、他の公共団体では任期を待たずしておやめになったりとか、成果も上がらないままおやめになられるような例がある中で、定住のほうまでというような結果を出されて成果を上げられたということは、本当に素晴らしいことだというふうに思います。

ですが、全てうまくいったというような判断をするというのは早計だと思いますので、この3年間の総括をしっかりしていただきまして、今後の検討材料にする必要があると思っておりますので、よろしく願いいたします。

ちなみに、地域おこし協力隊失敗の本質というサイトがあるんですが、ここに記載されている事項を幾つかご紹介をさせていただきます。

役場の失敗談ですのであれですけれども、役場の臨時補助員のように扱われる、朝夕必ず役場に出勤シタイムカードを押す、本末転倒な労務管理をされている、地域おこしでなく便利屋扱い、発言力もない、地域に話が通っていない、地域に行くとそんな話は聞いていないと言われる、行政採用試験の延長で行政が仕切る、着任したら仕事がない、学歴や経歴を過大に評価してしまう傾向にあるなどなど、さまざまな失敗談、体験談がこのサイトには記載をされていますが、今のお話をお伺いするに、総じて大体うまくいったのかなというような印象も持ちましたけれども、ここに書いてあるような内容について、当町ではそういったお話というのはなかったかどうかお聞かせください。

議長（小淵茂昭君） 総務課長。

総務課長（柴草 隆君） お答えいたします。

私もインターネットのほうで、その失敗する若者が出ているというようなものはちょっと見ましたけれども、当町においては、農林課に所属していた地域おこし協力隊につきましても、縁あって当町のほうにおいでいただいて、また、地元のほうともしっかりとやっていただいたというふうに聞いておりますし、今後もまた今までのその経験を生かした中で、また移住、定住のほうにもかかわっていただきたいということでお願いもしているところでございますので、そういう今、議員さんがおっしゃった失敗談とかそんなようなことは特に聞いたことはございません。

以上です。

議長（小淵茂昭君） 2番 山本光俊君。

2番（山本光俊君） この制度は平成21年から行われていると思いますけれども、初年度は31団体、89名で登録されたということでしたが、平成27年度には673団体、2,625名が協力隊として登録をされております。先日、議会運営委員会の管外視察でお伺いした新潟県阿賀町で、この協力隊の方が16名いらっしゃるというふうにお伺いをしました。そして、さきの10月に第1回地域おこし協力隊まつりを開催するなど、活発に活動しているとお伺いをして、協力隊のあり方について非常にそのときに興味を持ちまして、今回質問をさせていただくに至ったわけですが、先ほど期間を置いて2名ほど来年度雇用を予定しているというお話でしたけれども、もう少し大人数を雇用するというような計画、思いというのはございますでしょうか。

議長（小淵茂昭君） 竹節町長。

町長（竹節義孝君） 実は、お隣の木島平村に行くとも10名以上いるのかな、結構頑張っております。そういう意味でうちのほうももっと来ないのかなということで、実は去年も募集しました。去年、たまたま途中で1名おやめになられたので、そのおやめになられた方も途中でおやめになられたけれども、どうもいろいろお話ししているとホームシックになっちゃったようで、お友達がいなくて、それでまた、話しても年代的な皆さんとの交流がなかなかできなかったということもあって、犬を飼おうと思って犬を飼ったら大家さんのほうからいけないというふうに言われて、もうがくつきちゃったというようなこともお聞きしました。ただ、彼女もそういう中でESDのプログラムだけはドコモと一緒にでき上って、一区切り出たからいいですかと、こういうことで退職したいということでありましたので、次のところへ行きたいと。若い20代の女性でしたから、それも一つですよということ、しかし、その彼女も嫌になったのかなと思うと、ことし志賀高原ビアライブ、あそこへお友達を連れてきて、いやおもしろかったと、だからいいところだから友達を連れてきたというふうに言っていたのもおりますので、そういう意味じゃ完全に嫌気が差したということではなかったなというふうに、ちょっとほっとしているところでございます。

できれば本当はもっといろいろ探したいという気もあるんですけども、私どもも、ただ先ほどお話にあったように、町の職員の補強的なふうになっちゃいけないということで、地域おこし、それとユネスコエコパーク、これを中心にする、やっぱり2名ぐらいで、ただ、それでも複数の応募がたくさんあればあったで、またそういうのは考えていきたいなと思っておりますけれども、とりあえずその2つのポジションで2名ぐらいということではございますけれども、また、各課の中で必要な箇所があれば、またそれはそういうことも含めたり、あるいは同じところでも1人じゃなくて複数のほうがよければ、適任者であればそういうことも考えていきたいと思っております。柔軟に対応します。

議長（小淵茂昭君） 2番 山本光俊君。

2番（山本光俊君） 雇用形態というか募集については、これは役場の業務を中心に雇用を進めているという理解でよろしいですか。

議長（小淵茂昭君） 総務課長。

総務課長（柴草 隆君） お答えいたします。

募集につきましては、その担当課のほうからこんな人、こんな仕事をやっていただきたい人というものが上がってきた場合に、総務のほうから募集をかけておるような状況でございます。また、農林課の関係につきましては、近日中に募集のほうをかけるような段取りになってきておりますが、その隊員が来ることによって、町を活性化したいということでございますので、募集のほうについてもやっていきたいというふうに思っております。

以上です。

議長（小淵茂昭君） 2番 山本光俊君。

2番（山本光俊君） 地域おこしというような言葉からも連想をするんですけども、これは例えば各地域からの要望ですとか、各種団体からの要望、そういったものを受けて雇用を促進するというようなお考えはございませんでしょうか。

議長（小淵茂昭君） 総務課長。

総務課長（柴草 隆君） お答えいたします。

今まで町ではそういうことはございませんでしたけれども、ほかの地域の状況等の実績を見ますと、地元のそういう団体、また地元のほうからこういう協力隊に来ていただきたいというような形の中で、協力隊が地元に入っているところもあるということについては承知をしております。

以上です。

議長（小淵茂昭君） 2番 山本光俊君。

2番（山本光俊君） 承知をされているということですが、それを踏まえて、今後そういった展開をしていこうというような考えはお持ちでいらっしゃいませんか。

議長（小淵茂昭君） 総務課長。

総務課長（柴草 隆君） お答えいたします。

また、近隣の状況ですとかそういう先進地の状況等を研究する中で、ちょっと検討のほうをさせていただきたいというふうに思います。

以上です。

議長（小淵茂昭君） 2番 山本光俊君。

2番（山本光俊君） この総務省による地域おこし協力隊制度というのは、非常に期待ができる制度だなというふうに感じておまして、今後さらに活用すべきと考えます。この7年間で制度も大分定着して運用上手なところか、そうでないところがはっきりしておりますし、また、新たに参画する団体も情報を取得しやすくなっているので、最初からうまく体制をつくれるようにもなっています。そうすると人数いかににもかかわらず、必然的に他の公共団体との競合が激しくなりますし、協力隊の申し込みを考えている人はいろいろな場所を比較して、よりよい環境や自分を生かせそうなところ、そういったものを選択できるようにどんどんなってい

ます。これまで協力隊の募集は行政主導で行われてきたということですが、今後、それだけでは協力隊の確保というのは難しいと思いますので、地域や団体、事業所などの要望を酌み取って、それぞれの特性を生かした魅力ある提案を、それに沿った人材募集をしていただきたいと思います。と思いますが、いかがでしょうか。

**議長（小淵茂昭君）** 竹節町長。

**町長（竹節義孝君）** ご提案の趣旨は十分ご理解いたしましたし、昨年も新藤義孝総務大臣、字が全く私と同じということで川口市出身の方でございしますが、そんなご縁もあってということで、湯田中温泉へ来て一緒に知事さん交えて地域おこし協力隊の今後の取り組み方についていろんな意見交換をさせていただいて、もちろん総務省の職員も結構たくさんお見えになって、非常にそういう意味では有意義だったかなと。

ただ、その中で皆さんも心配しておったのは、ただ単に臨時職員の延長にはならないように、できるだけ地域の皆さんとコミュニケーションを図りながら、地域おこし協力隊員がそうやって成果が上がっているということについては非常にうれしいということで、総務省の大臣含めておつきの皆さんもおっしゃっていただきましたので、私どももそういう形をこれからもとっていきたいし、また、今、全て役場の職員の臨時的、あるいは正規職員の補完的な立場でお見えになるという、そういう認識は持ってもらっては困るというふうにもおっしゃられておりましたし、私どももそういうつもりでは特に対応しておりませんでしたので、ぜひそういう意味ではご提案のご趣旨、十分踏まえながら、先ほど総務課長が申しあげましたように、各課のほうで、あるいは各団体のほうからのご意見なども聴取しながら、他の例を参考にして柔軟に対応していきたいなど、こんなふうに思います。

以上です。

**議長（小淵茂昭君）** 2番 山本光俊君。

**2番（山本光俊君）** ぜひ地域と連携をした協力隊の活用というものを基盤整備していただきたいと思います。

そういったことを視野に入れていただくということでお願いをするわけですが、もし、受け入れが可能になった場合に、ちょっとこれだけはお伝えしておきたいなと思うんですけども、受け入れに当たっては、先ほど冒頭というか、前段でお話をさせていただきました地域おこし協力隊失敗の本質というようなサイトに記載されているようなこと、行政側のほうとしては大分もう経験も積まれまして事情というのもよくわかっていますが、これから地域と連携、あるいは各種団体と連携を推進していく中で、こういったことをまだご存じないようなところも当然出てくると思いますので、受け入れに当たっては、そういった方たちへの告知ですとかケア、そういったものをしっかりとさせていただく準備も、またあわせて進めていただきたいと思います。というふうに思います。

それから、受け入れに当たってはこちらから必要に応じて募集をするわけですから、お越しいただいた方の業務形態、職場環境、それから生活環境や任期後に定住いただけるためのケア

など、移住者の人生を預かるくらいの責任と配慮が必要だというふうに思っています。これは当然、町側だけではなくて地域や団体、それから地域おこし協力隊の皆さんにかかわる全ての人に共通の認識を持っていただける、地域からの要望で雇用するしないにかかわらずですけども、持っていかねば意味がないということだと思います。

先ほどから何回も出ていますけれども、役場の臨時事務補助員のように使われるようなことですか、学歴や経歴を過大に評価してしまうといった失敗を、もうスタートのときから皆さんにはご理解をいただけて、受け入れができますよう、また、基盤の整備をよろしくお願いをしたいと思います。

続きまして、白根火山噴火警戒レベルの入山規制について再質問をさせていただきますが、外国人によるツアー、それから現地外国人が案内をしているという例を聞いておりますけれども、この件については把握をしておられますでしょうか。

**議長（小淵茂昭君）** 観光商工課長。

**観光商工課長（小林広行君）** お答えします。

今のお話の内容の具体的な詳しいことはわからないんですけれども、話として聞いたことがあるのは、現在、白根火山から半径1キロメートル以内は入山禁止でございます。その中に入ったという、そういった外国人がいるという話は聞いております。

以上です。

**議長（小淵茂昭君）** 2番 山本光俊君。

**2番（山本光俊君）** これは非常に難しい問題でございまして、町内にご宿泊、あるいは滞在をされている方だけではなくて、町外からもさまざまな方がいらっしゃって、この白根火山の入山禁止区域に入り込んでいるというような話も、実は私のほうで聞いております。そういう事例も考慮しまして、町外の事業所にも先ほど言ったチラシですとか告知というのを範囲を広げてしていく必要があると思いますが、この件についていかがお考えでしょうか。

**議長（小淵茂昭君）** 観光商工課長。

**観光商工課長（小林広行君）** お答えします。

やはり危険が及ぶような場所に入っていくというのは、町としましても観光団体にとりましても非常に困ることでございますので、そういったものの範囲を広げるということについては検討したいし、前向きに取り組みたいというふうに思います。

以上です。

**議長（小淵茂昭君）** 2番 山本光俊君。

**2番（山本光俊君）** 特に、インバウンドの方を中心に広範囲のエリアから多様な方を対象に規制していかなければならない。その対応の難しさというのは理解をしておりますが、今後とも状況の把握と対応策の検討、それから協議を続けていただきますよう申し上げて、私の質問を終わります。

**議長（小淵茂昭君）** 2番 山本光俊君の質問を終わります。

ここで議場整理のため、1時50分まで休憩します。

(休憩) (午後 1時44分)

---

(再開) (午後 1時50分)

議長(小淵茂昭君) 休憩前に引き続き会議を開きます。

---

議長(小淵茂昭君) 9番 徳竹栄子君の質問を認めます。

9番 徳竹栄子君、登壇。

(9番 徳竹栄子君登壇)

9番(徳竹栄子君) 9番 徳竹栄子。

去る11月26日、北小閉校記念式典が行われました。第1部は須賀川の誇れる民話を題材とした合唱劇「おはん」、混声合唱団コール・ドゥ須賀川公演、とても感銘いたしました。第2部は、ありがとう北小と題し、元北小校長の小山修二氏の所属するオーケストラカメラータ・ナガノの皆さんの演奏をバックに校歌が歌われました。楽譜は昭和61年、30年前に世界的に有名な指揮者小澤征爾さんが北小と交流した際につくられた、当時、指揮した編曲がよみがえり、全校31名の子供たちの力強い歌声が響き渡りました。また、西小、北小の子供たちをつなぐ合唱組曲「夜間瀬物語」の美しい歌声が心にしみ渡りました。コール・ドゥ指揮者唐沢史比古氏の作詞、作曲であります。そして、やさしく かしこく たくましいの教えを学んだ児童たちの堂々としたESDの発表、児童、地域の皆さんは139年の歴史ある学校の閉校は悲しく寂しいけれども、この感激を忘れないと思います。そして、明治10年、温知学校として先人の方の大変なご努力、ご苦勞のおかげで開校されたことは、須賀川に生きた方々は決して忘れないと思います。子供たちはふるさとを改めて見詰め直し、深く心に刻み、誇りを持ち、地域の方々は子供たちの未来を願う、前を見ている、そんな気がいたしました。

さて、本日は交通弱者の足を守る、町の宝物の子供たちの安心・安全、よりよい保育環境を守る、そして、国立公園の森林を守るという観点からお聞きします。

それでは、通告に従い質問いたします。

1、地域公共交通について。

(1) 須賀川線バスの平成27年1月1日から10月30日までと、平成28年1月1日から10月30日までのそれぞれの乗車人数状況は。

(2) 中野市地域公共交通協議会との交渉の進捗状況は。

(3) 現在のバス路線運行会社の方針状況は。

2、子育て支援について。

(1) 特別保育料軽減策の実施前と実施後の保育児童の数の推移は。

(2) 特別保育における保育士の人事体制は。

3、ABMORI事業について。



(1) 9月10日に行われたモニタリング調査について具体的にどのような目的で、どのような調査を行い、今年度はどのような結果が得られたのか。

(2) 平成28年度に行われたABMOR I 事業費の明細内訳について説明を求めます。

(3) 本町で育苗し植樹した本数は、昨年度と比較してどのように変化したか。

再質問は質問席で行います。

**議長(小淵茂昭君)** 答弁を求めます。

竹節町長、登壇。

(町長 竹節義孝君登壇)

**町長(竹節義孝君)** 徳竹栄子議員のご質問にお答えいたします。

まず、1点目の公共交通について3点のご質問をいただいておりますが、(2)、(3)については小林克彦議員にお答えしたとおりでございますが、公共交通をどう存続させるかは、行政だけでなくして地域住民がどれだけ利用していただくかが大切であります。(1)につきましては、総務課長から補足の答弁を申し上げます。

次に、2点目の子育て支援について2点のご質問をいただいておりますが、18歳までの医療費の無料化、保育料10%一律軽減、延長保育の改善、学生の通学定期代の補助、さらには今年度から多子世帯の保育料の軽減等を行い、さらには来年度より年長保育児の保育料の無料化、さらには小・中学生への卒業祝い金など新たに提案し、少しでも家庭の皆さんの負担軽減に対応していきたいなと思っております。

そのことを通して、子育て支援策として、これからもいろんなことを進め、地域の皆さんに安心してお住まいいただけるような、そんなことも考えてございます。

詳細につきましては、健康福祉課長からご答弁申し上げます。

次に、3点目のABMOR Iの事業について3点ご質問いただいておりますが、ことし3回目のイベントを行うことができました。ABMOR Iは単なる植樹イベントにとどまらず、環境学習プログラムとしての一面を持ち合わせ、今後は人的交流も含めさまざまな面で展開していくものと考えております。森をつくるためには50年、100年という長い年月が必要であります。自然保護と持続可能な利用というユネスコエコパークの理念とリンクさせながら、「後世に残そう森・水・いのち」～志賀高原から世界へ 未来へ～のコンセプトにより、また市川海老蔵さんという歌舞伎界のトップスターというか、一番の魅力ある方が提唱していただいていることが大変意義があるのかなと思っております。これからも実践活動を継続し、森林再生とあわせて地域の子供たちが自然を大切にする心を、また、次の世代に伝えていけるようさまざまな機会を創出してまいります。

来年も7月29日には市川海老蔵さんのスケジュールによりABMOR Iの植樹の日程の連絡をいただき準備に入っているところでございます。ことしの全国植樹祭での海老蔵さんがサプライズで天皇皇后両陛下や7,000人余の参加者の前で歌舞伎の披露もあり、当町との関係に他市町村からは海老蔵さんが山ノ内町の植樹の経過、なぜ山ノ内町なのか、ギャラは何千万円ぐ

らいかなど、大変うれしがられております。小学生の育苗活動のほかサテライトとして山ノ内中学、玉村中学の野球部でバットの材料となるアオダモをこし玉村町で玉村町長とともに記念植樹もさせていただきました。

なお、ご質問の詳細につきましては、農林課長から答弁させていただきます。

以上でございます。

**議長（小淵茂昭君）** 総務課長。

**総務課長（柴草 隆君）** お答えいたします。

1の地域公共交通についての（1）須賀川線の乗車人員の状況のご質問ですが、1月から10月までの10カ月間の乗車人数を長電バスに照会いたしました。把握はしていないとのことです。

なお、年間の乗車人員を申し上げます。平成26年は2万8人、平成27年は1万8,944人で、前年比マイナス1,064人と大きく減少しました。

以上でございます。

**議長（小淵茂昭君）** 健康福祉課長。

**健康福祉課長（藤澤光男君）** それでは、お答えします。

2の子育て支援についての（1）特別保育料軽減策の実施前と実施後の保育児童の数の推移はとのご質問ですが、働く保護者への子育て支援として、特別保育料の軽減を平成28年度から行っております。

内容につきましては、平日の延長保育と一時保育の利用料につきましては、月2回までを無料とし、土曜日の延長保育と休日保育の利用料は無料としております。延長保育につきましては、平成27年度の1カ月当たりの平均の実利用人数は105人、平成28年度では10月までの平均で1カ月当たり87人となっております。一時保育につきましては、平成27年度の1カ月当たりの平均実利用人員は11人、平成28年度は13人となっております。休日保育につきましては、平成27年度1カ月当たりの平均実利用人数は12人、平成28年度は18人となっております。特別保育料の軽減によりまして、利用者は増加している傾向にあると考えております。

続きまして、（2）の特別保育における保育士の人事体制はとのご質問ですが、延長保育、休日保育につきましては、臨時職員により対応しております。また、一時保育は正規職員にて対応しております。いずれにしましても、子供たちの安全が確保できるよう、適材適所の配置に努めてまいりたいというふうと考えております。

以上であります。

**議長（小淵茂昭君）** 農林課長。

**農林課長（山本和幸君）** お答えします。

ABMOR I事業について（1）9月10日に行われたモニタリング調査について、具体的などのような目的で、どのような調査を行い、今年度はどのような結果が得られたのかとのご質問でございますが、モニタリング調査は植樹した苗の生育状況を継続的に把握し、植樹方法の

検証、森林の再生過程の確認、将来の森林の展望をユネスコスクールの子供たちが実践活動の中で環境学習できるよう林野庁及び県の協力のもと進めております。

具体的な調査方法といたしましては、1回のイベント時の植樹面積3,000平方メートルの中から100平方メートルの区画を10カ所選定し、さらにその中から主要な樹種15本を選定し、木の高さをあらわす樹高、木の長さをあらわす樹長、地表部分の直径を測定、木の様子をあらわす樹勢についても記録をしております。調査結果につきましては、ことしからの測定でありますので、1回目の測定数値を蓄積したところでございます。

モニタリング調査では学会での研究成果の発表を目標として、今後10年間のデータを蓄積していくこととしております。

(2)平成28年度に行われたABMOR I 事業費の明細内訳について説明を求めますとのご質問ですが、平成28年度のABMOR I 実行委員会予算額を1,863万4,000円として現在事業執行をしております。事業費の内訳として、1、植樹経費、2、育苗経費、3、式典経費、4、会議経費、5、広報経費、6、事務経費、7、予備費と大きく7つの経費に分けて計上しています。

内訳を申し上げますと、1、植樹経費につきましては、イベントに係る植樹地の造成から苗の購入、参加者のシャトルバス等の経費でございます。2、育苗経費につきましては、ユネスコスクールの環境学習として、実践活動を行っております志賀高原での稚樹の採取、ドングリからの苗づくり、モニタリング調査に係る経費であります。3、式典経費につきましては、イベント時の開会式典に係る司会、ステージの音響等の経費となっております。4、会議経費については、イベント開催のための打ち合わせに係る会議室の借り上げ等の経費となります。5、広報経費については、イベント告知チラシの作成経費等でございます。6、事務経費については、各種経費の振込手数料及び郵送料となっております。

歳入に関しましては、実行委員会への収入として、町負担金974万7,000円、長野県地域発元気づくり支援金392万6,000円、国土緑化推進機構からの緑の募金公募事業補助98万円、信州大学ハナサカ軍手プロジェクト及び中野西高校生徒の協力により募っております育苗協力金100万円のほか、前年度繰越金、預金収入となっております。

なお、町の負担金へ充当するための寄附金につきましては、平成28年度予算額200万円に対しまして、11月16日現在で72件、403万20円の収入となっております。

いずれにしましても、ABMOR I 実行委員会事業に関しましては、平成28年度事業執行中でありますので、途中経過としてご理解をお願いいたします。

3、本町で育苗し植樹した本数は、昨年度と比較してどのように変化したかというご質問ですが、ABMOR I では環境省との協議のもと、遺伝子レベルでの植樹を目指しており、ユネスコスクールの環境学習プログラムとして東小学校3、4年生児童による稚樹の採取、同じく1、2年生児童によるドングリからの苗づくりを昨年からはスタートしました。稚樹の採取については、昨年は旧笠ヶ岳スキー場にて600本、ことしは横手山スキー場にて160本のコマツガの

稚樹を採取し、育苗地への移植をしております。

また、ドングリからの苗づくりについては、昨年、約1,000個、ことしは約500個のミズナラの種子を播種しております。採取した苗やドングリについては、植樹できる大きさになるまでは育苗地で育成する予定でおりますので、現時点におきましては、植樹した本数はゼロでございます。

町の大切な一般財源を活用しての事業運営であることから、結果がすぐに見えてこないことが歯がゆいところではありますけれども、ABMORIを起点としさまざまな事業展開を図ってまいりますので、ご理解、ご協力をお願いいたします。

以上です。

**議長（小淵茂昭君）** 9番 徳竹栄子君。

**9番（徳竹栄子君）** それでは、再質問いたします。

まず、公共交通ですけれども、一応現在の現状の把握ということですが、比較しますと1,000人の減少ということがございます。それでは、以前、長電と総務産業常任委員会と懇談した時点で輸送量が20、これ15になると国や県の補助金がゼロとなるという説明がありましたが、推移をお願いします。

**議長（小淵茂昭君）** 総務課長。

**総務課長（柴草 隆君）** お答えいたします。

輸送量の推移でございますが、須賀川線につきましては、平成26年の実績で18.2、平成27年では16.3、28年の当初見込みでは15.8なんです、実績見込みでは15.8よりも下がる見込みでございます。また、平成29の当初見込みにおきましては、15.3という数字が出ておるんですが、こちらも限りなく15か15を29年で下回るんじゃないかというような、そのような見込みに変わってきております。

以上でございます。

**議長（小淵茂昭君）** 9番 徳竹栄子君。

**9番（徳竹栄子君）** となると大変厳しい状況になると思うんですけれども、こういうような最悪の状況になった場合、町長としてはどのようにお考えになりますか。

**議長（小淵茂昭君）** 竹節町長。

**町長（竹節義孝君）** まずは、やっぱり地元の皆さんにできるだけ乗車していただくようにし、そして、乗車人員が割ってきますと、それについては公共交通を守るという立場もございまして、また、地域住民の皆さん、中野市、それから長電バス、そういった皆さんと十分協議して、町としての対応を、また、公共交通機関検討委員会の中で検討し、町の予算化も必要になってくるのではないかなと、こんなふうに思っております。

**議長（小淵茂昭君）** 9番 徳竹栄子君。

**9番（徳竹栄子君）** この公共交通を生かすために、存続するために、町としては福祉乗り物補助金とか高校生通学定期購入補助金等々負担して、何とか利用していただきたいということで

すけれども、もう正直言って、今のこの現在のバスの人数を見ると、本当に限界にきているんじゃないかという気がいたします。27年度の決算では3路線の維持で約1,000万、福祉乗りで370で1,350万補助金を出している。この28年度はさらに補助金の負担が多く福祉が400、通学が300、これが新しく入りまして、約2,350の税金をこちらのほうに投与しているわけですが、どんどんこれがふえてくるということで、ぜひ中野の公共交通対策の協議の結果、それから、バス会社との運行に対する考え方とかそういったものを今検討はしているけれども、もう現実にこういった最悪の状況になってきているということであれば、やはり先行して町としても検討する必要があるんじゃないかと思うんですけれども、その辺をお聞きます。

議長（小淵茂昭君） 柳澤副町長。

副町長（柳澤直樹君） 小林克彦議員に町長が先ほどお答えしましたとおり、今まだ現時点で方向性をお話できる段階にはございませんけれども、年内には何らかの方向性を見て、町としてのいろいろ対応をまた検討してまいりたいと、このように考えております。

議長（小淵茂昭君） 9番 徳竹栄子君。

9番（徳竹栄子君） 町で約270万で平成27年度地域公共交通システム構築策定支援事業を行ったわけですが、この調査、運行方式のことについて検討したと思うんですけれども、この結果は現在どのように活用し、これはまた、今後、発表していただけるのでしょうか。

議長（小淵茂昭君） 柳澤副町長。

副町長（柳澤直樹君） ただいまのお話ございました調査の結果を踏まえて、ただいまいろいろ協議をしているという段階でございますので、それも含めて、またお話しする機会ができようかというふうに考えております。

以上です。

議長（小淵茂昭君） 9番 徳竹栄子君。

9番（徳竹栄子君） こういった実態調査、それからアンケート、これがまず私は優先じゃないかなと思うんです。もちろん中野市の協議会の結果、それからバス会社等の意向も大事ですが、まずは住民の声をどんなことを要望しているのかということを検討していただいて、それから当町でできる範囲の代替案というものを、さらにそれを踏まえて検討していただくということでご理解してよろしいのでしょうか。

議長（小淵茂昭君） 柳澤副町長。

副町長（柳澤直樹君） 地域交通につきましては、これまでもさまざまな住民の声も聞きながら対策をやっているわけでございますけれども、今、ご紹介しましたとおりの数字の結果でございますので、まずその数字の実態というものをやっぱり重く受けとめて、その辺の中で先ほど申し上げました調査の結果も踏まえて協議、検討をしたいというふうに考えております。よろしく申し上げます。

議長（小淵茂昭君） 9番 徳竹栄子君。

9番（徳竹栄子君） これは十何年前ぐらいから検討したり実態調査、アンケートをとっている

中で、今ここでやっとな具体的に動きが出てきたのかなと私は思っております。住民は一日も早く、この不便な公共交通、正直言ってバス会社も一生懸命やってはいただいておりますけれども、不便な状況が続いていることは事実でございます。ぜひ、町民の皆さんは町の今後の新しい取り組みに期待しておりますが、その辺について町長のお考えを聞いて、次の質問にいきます。

**議長（小淵茂昭君）** 竹節町長。

**町長（竹節義孝君）** 公共バスですから、冒頭先ほど申し上げましたように、まず、地域の皆さんに乗っていただくということが前提でございます。これがないで町へ町へといって対策を求めたってこれは無理で、ある方に私は正直ストレートに申し上げました。1年に一度ぐらいみんなで町へ金出して存続させろ、存続させろって何百万、町は出しているのにもかかわらず、それだけ言っているんじゃないで、少なくとも区の皆さん、一度役員たちがバスを1年に1回ぐらい乗るような、そういうことを自分たちでまず企画してくださいと、こういうお話をさせていただいたこともございますけれども、町の方針を出す前に、やっぱりぜひ地元の地域住民の公共交通ということでございますので、私自身も乗っているのかなといたら、特別何かあったとき、要するにあと一杯飲んだりしたとき、ちょうどいいバスが電車があれば乗ったりする程度でございますけれども、できるだけそうやって地元の議員として指導的な立場で区の皆さんと協力して乗っていただく方策を、まず積極的に講じていただきたいなと。そして、その部分を、また、さらにそれでもなおかつ難しい部分は、今度は行政としても一緒になって長電バス、地元の皆さんと相談して対応していきたいというふうに思っています。

ただ、決して見捨てるとか、どうにでもなれというつもりは一切持っておりませんので、これはやっぱり住民にとって大切な足であるということだけは基本的に認識し、ですから、副町長を中心にしながら庁内会議を設けたり、中野市の副市長、長電バスやなんかを交えて取り組んでいるという、この実態を実情をご理解いただきながら、ぜひ乗ることを、まず地元の皆さんに町のほうでも広報等でPRしますけれども、積極的に声かけをしていただければありがたいなというふうに思います。

**議長（小淵茂昭君）** 9番 徳竹栄子君。

**9番（徳竹栄子君）** それは乗ることは大事なんですけれども、乗れないという現実もあるわけです。その辺についてはこの先ほどの年々減少していることが物語っております。ぜひこれからも山ノ内の皆さんの足、公共バスの存続も踏まえながらも構いませんから、便利なよりよい公共システムをお願いしたいということでございます。

次に、子育て支援についてお聞きいたします。

これは11月1日に町長と女性団体山ノ内の方々と懇談会を行ったときに、皆さんの要望、提言に対する具体的な対応について再度お聞きしたいと思い質問いたしました。

子育て世帯の負担軽減の対応によりまして、全体的に利用児童数が増加しているという状況であります。これは大変ありがたいと、保護者の方は助かっているということで評価したいと思

います。その無料とかそういったものの軽減策をしている中で、もう少し保育体制をよりよくしていただくということで再度お聞きいたします。

まず、休日保育、一時保育は先ほど課長から聞きましたが、大体月約2倍から3倍を示しています。一時保育は1.5、その月によっては3倍ということになっております。こういった状況で休日保育、一時保育においては志賀高原とかえで、休日保育は1園になっております、実施している保育所はです。これは全園というのは大変難しいかもしれませんが、東西南北1園ずつ保育所を開設するという事は難しいでしょうか。

**議長（小淵茂昭君）** 竹節町長。

**町長（竹節義孝君）** 今のお話を聞いていますと、東西南北1園ずつすると全部の保育園ですよ、町はあと志賀とそれしかございませんので。そういう中で今、どういう形でそのやつをやっているか、住民ニーズ、希望がどの程度あるか。要するに、そういったこともただ1人でもいいから全て職員1人配置してやれということになるのか、そこら辺、まだ、私は正直言って実態把握してございませんので、また、主管課のほうで当日、課長も同席しておりましたし、そこら辺の事情は十分課長も理解しておりますし、よりよい保育を目指して、また、保護者の皆さんに十分ご理解いただく部分、あのときも申し上げましたけれども、もっと思い切った抜本的なことを私、近々また発表させていただきますというのは、年長保育料の無料と小学生、中学生3年生のそのことを遠回しに、何かもう少し抜本的なことをやりたいということで申し上げてきたところがございますので、また、あれもこれもいろいろございますけれども、できるだけ住民ニーズに沿うような形で取り組んでいきたいなど。

なぜ、そういうことをやったかという、年長保育というのは3人世帯の子供の保育料を無料にしるとかいろいろ言われまして、そういうものも実施してきましたけれども、なかなかそういう個々の要望に対して応えても、全体的な子育て支援になっているのかどうなのか、私自身もちょっと疑問がありましたので、できるだけ多くの皆さんが対象になれるような今回の年長の保育料無料化と、それから、小学校、中学校の卒業生には祝い金と、全部が対象になると、こういうことで対応してきておりますので、まだまだ全てがこれでバラ色というわけには思っておりませんが、できるだけそういう保護者のニーズを踏まえながら、現場の保育士、あるいは主管課のほうで十分精査して対応していきたいなどと思っています。

**議長（小淵茂昭君）** 9番 徳竹栄子君。

**9番（徳竹栄子君）** 今、町長が言ったように、今後も現場を見ていただき、保護者の要望とか悩み、困ったことをさらにきめ細やかに対応していただきたい。その辺について課長は例えば現場に行ったことはございますでしょうか。

**議長（小淵茂昭君）** 健康福祉課長。

**健康福祉課長（藤澤光男君）** お答えします。

全ての保育園に行ったかと言われると、今のところ一部の保育園には伺っておりますけれども、全体の保育園には行っていないのが現状であります。

以上であります。

**議長（小渕茂昭君）** 9番 徳竹栄子君。

**9番（徳竹栄子君）** ぜひお忙しいと思いますけれども、現場を見ていただければと思います。

それで、女性団体の方々が特に要望が多かったのは延長保育についての要望なんです。先ほど人事体制を聞きますと、臨時職員対応のことですけれども、延長保育のみの人事体制を教えてください。

**議長（小渕茂昭君）** 健康福祉課長。

**健康福祉課長（藤澤光男君）** お答えします。

先ほどもお答えしましたけれども、延長保育につきましては臨時職員により対応しているということであります。

以上であります。

**議長（小渕茂昭君）** 9番 徳竹栄子君。

**9番（徳竹栄子君）** 先ほど推移を見ますと、延長保育、土曜日の午後の実利用人数がやはり無料ということで、27年度が1年で69人、延べ利用人数です。28年は7カ月で95人と、かなり大幅に増加しております。土曜日無料ということでお母さん方もお仕事の都合で預けるといことが多くなってきているわけです。そして、27年度決算の延べ利用人数は夕方は1万3,700人、そして、26年は1万3,600人、約1万4,000人弱です。このように多く利用されております。

それで27年度については、延長保育、平日のおやつ、これは細かいようですけれども、小さな子供たちにとっては大変ありがたいものなんですね。これが平成27年度5月におやつが停止してしまったということでございます。私も孫をもう6人も赤ちゃんを育て、親の仕事、朝早く、夕方遅くまで親と離れておりますと、やはり恋しさとか遊び疲れで一日の間をとるにはとてもおやつというものがありがたい手段なんです。これは子供を育てててというか、見てあげない方にはちょっと理解はできないかもしれないんですけども、特に、おやつの復活について、もう一度この間の懇談会のときはちょっと明確な具体的なお返事をいただけなかったんですけども、その辺の推移をもう一度お聞きしたいんですが。

**議長（小渕茂昭君）** 健康福祉課長。

**健康福祉課長（藤澤光男君）** お答えします。

平日の延長保育のおやつが廃止になったということで、このおやつにつきましては、平日の夕方6時以降も利用する子供たちが対象であったということで、ただ、時間を遅くに支給するというようなことがありまして、帰宅後、夕食を食べられないというようなケースがあるというようなことを考慮いたしまして、平成27年4月に廃止をいたしました。これにつきましては、皆さんからの要望等をお聞きしながら、必要であればまたおやつの支給についても検討していきたいというふうに考えております。

以上であります。

**議長（小渕茂昭君）** 9番 徳竹栄子君。



9番（徳竹栄子君） 小さな子供たちにはとっても楽しみにしております。また、今までのおやつを見ても、1万4,000人の延べ人数に対して4万円のおやつの費用でございます。本当におなかがいっぱいになるようなおやつの量ではないと思いますので、ぜひもう一度その辺について優しい保育サービスを検討していただきたい。その辺について町長、いかがでしょうか。

議長（小淵茂昭君） 竹節町長。

町長（竹節義孝君） 先ほど課長がご答弁申し上げたとおりでございます。

議長（小淵茂昭君） 9番 徳竹栄子君。

9番（徳竹栄子君） それと先ほど臨時職員、大勢になりますと、その臨時職員がふえるんですか、それとも正職員が加わるんでしょうか、その辺をお聞かせください。

議長（小淵茂昭君） 健康福祉課長。

健康福祉課長（藤澤光男君） お答えします。

現状では延長保育、それから休日保育については臨時の皆さんにお願いをしたいというふう  
に考えております。

以上であります。

議長（小淵茂昭君） 9番 徳竹栄子君。

9番（徳竹栄子君） 普通保育は正職員がもちろんおります。しかし、やはり保育指針は普通保育も特別保育も区別はないと思うんです。ですから、特別保育においても、特に延長保育は人数が多いわけです。できれば臨時職員だけでなく、正規職員の保育士の方にも入っていただいて、園児の保育をしていただきたいということなんですけれども、その辺についてお聞きします。

議長（小淵茂昭君） 健康福祉課長。

健康福祉課長（藤澤光男君） お答えします。

先日の女性団体の皆さんとの懇談会でも申し上げましたとおり、正規の職員も数に限りがありまして、各園におきましても、それぞれ規模の大小がありまして、そういったものを改めてローテーションを組んでというようなことを考えていくと、なかなか現状では難しいところがあるのかなというふうに思っております。

以上であります。

議長（小淵茂昭君） 9番 徳竹栄子君。

9番（徳竹栄子君） なぜ正職員がいたほうがいいのかといいますと、やはり臨時職員、もしかしたら園児が多くなった場合にシルバーの増員ということも考えられるわけだし、現実、その後、お聞きしますと、シルバー対応をしているということでございます。やはりそういった方々ももちろん一生懸命園児のためにいろいろと養育をいただいておりますけれども、防犯、災害、火災、そういった緊急対策の対応に対しては、やはり臨時職員とかシルバーの方ではかなり責任が重く不安を感じると。そういった点で、やはり正職員が1人いたほうが子供たちの安心・安全のためには必要ではないかということでお聞きしているんですが、その辺についてお聞き

します。

**議長（小淵茂昭君）** 健康福祉課長。

**健康福祉課長（藤澤光男君）** お答えします。

議員のおっしゃるとおりだと思うんですけども、ただ、臨時の職員の皆さんにつきましても、保育士のOBの皆さんですとか、あと資格をきちんと持っていらっしゃる皆さんが対応していただいていますので、そういう面では信頼できる職員をお願いしておりますので、そういったことをご理解をいただければというふうに考えております。

以上です。

**議長（小淵茂昭君）** 9番 徳竹栄子君。

**9番（徳竹栄子君）** そうしますと施設の管理、それから保育指導、シルバーさんも含めてですけども、そういった講習、それからそういった学習はどのようになさっていますか。

**議長（小淵茂昭君）** 健康福祉課長。

**健康福祉課長（藤澤光男君）** お答えします。

それは園ごとに園長なり主任の保育士のほうからいろいろお話がされていると思います。それから、シルバーの方につきましては、臨時の方が入れないときの代替というようなことでご理解をいただきたいと思います。

以上であります。

**議長（小淵茂昭君）** 9番 徳竹栄子君。

**9番（徳竹栄子君）** 子育て支援として経済支援、先ほど町長が言った年長の無料、そういった支援に対して充実してきたということに対しては、本当に評価いたします。それに伴いまして、やはり保育児童が増加する傾向で、増加しているというのが現実です。今以上に保育士の確保、正職員の特別保育の配置、そういったものをさらに充実を図っていく必要があるということになっております。そういうことをお願いしているわけです。無料になっているいろいろな町としては負担もかかるでしょうけれども、人事体制、サービス低下にならないことを、今後保育運営に対して考えていただくということでお聞きしました。町長の答弁をお聞きします。

**議長（小淵茂昭君）** 竹節町長。

**町長（竹節義孝君）** 臨時職員と正職員ということでおられますけれども、両方とも町長名で辞令交付された町の職員でございます。臨時職員だから仕事はちょっくらいでいい、そういうことではございません。正規職員も臨時職員も同じように、その子供たちに対しての保育をしていただくということになるわけでございますけれども、待遇面での違いはこれがございます。しかし、皆さん方にそういう条件で特にお願いしてきているということがございますけれども、今まで保育の資格を持っていたり、また、保育の経験があったり、そういった皆さんを中心にそれぞれお願いし、日常的に各保育園では園長を中心に事故のないように通常、普通保育、それから特別保育も含めて対応するようにしてございますので、これからもできるだけ職員体制については今まで毎年充実はしてきておりますけれども、職員定数の絡みがありますので、そ

の範囲の中でそれぞれ対応しながら、しかし、保育人数を少し落としてきておることと、昔と違いまして、ゼロ歳児を初め未満児の保育だとか、あるいは障害児保育だとかそういう部分についての加配、特別保育、いろんな行政需要に対してそれぞれ対応してきているということの中で、なかなか保育士さんが見つからないという現状もございますが、引き続き、できるだけ先ほど課長が冒頭申し上げましたように、適材適所で優秀な人材で子供たちに、やっぱり三つ子の魂百までも、そんな保育をきちっと対応していただける、そういうことを十分考えていきたいなど。

ただ、単に預かるだけということではなくして、そういうことも含めながら大切なお子さんを行政として預かっていくという、そんなことをこれからも心がけてまいりたいというふうに思いますので、いろいろまた住民要望を踏まえながら、これでいいんだということではなくして、少しずつでも改善をする方向で対応していきたいと思っています。

以上です。

議長（小淵茂昭君） 9番 徳竹栄子君。

9番（徳竹栄子君） 誤解しないでいただきたいんですけども、私は臨時職員と、それからシルバーさんは一生懸命やっていたらということ、先ほど申し上げましたので、ちょっとくらいに考えているなんていうことは思っておりません。

次に、ABMORI事業について、ABMORI事業も命を守る森づくりと称して世界的な有名な海老蔵氏が当町にお越しいただいていることは大変光栄に思っております。そして、当町の宣伝にも大変寄与していただいていることに対しては感謝しております。また、森林を大切に作る心、再生していくことは大変重要である、後世に残していくのは私たちの大きな責任であるということは、もちろん私もわかっておりますが、この事業の趣旨は理解しますが、私は前回は質問しましたが、この造成をしたり、それから他の地域の苗を何万本も植樹するというそういう方法が、私にはこのすばらしい志賀高原の自然の森を本当に守ってくれるのかということが疑問で、私は質問いたします。

それを踏まえまして、私は今回、1回目はモニタリングを行うということで、これは大事なことであるということで、その内容についてお聞きしたいと思い質問しました。

2つ目は、昨年27年度10月に自然公園における法面緑化指針という指針が環境省自然観光局から示されました。この内容は、従来の自然公園における法面緑化基準でうたわれている自然景観との調和に加え、先ほど課長も申しました遺伝子レベル、種のレベル、それから生態系のレベル、そういった生物多様性に配慮することを新たに27年度に指針として10月に発表されたわけです。

現在、今のABMORIについては、昭和55年に緑面緑化基準というものが策定され、その中で行われているのではないかと私は思います。それは何でかということ、自然公園での緑化があるに、自然景観の調和という考え方、それに基づいて地域に分布、生育する植物を用いて、周辺の景観を構成する植種に近い状態を復元するための基準、昭和55年に出されてい

る緑化の指針なんです、これに基づいてABMORIの事業は本当になされているのかなというのが、ちょっと疑問に思ったんです。一部しています、一部。それはなぜかという、オリンピックのときにこういった基準をもとに表土復元、そして、動物の通路確保、そこまですて自然に配慮して行われたと、ユネスコエコパークのパンフレットに書いてあります。まさにこれは20年前に行ったことが、この27年度の自然公園における法面緑化指針に本当にもう20年前に当町はやっているわけです。

これは本当にすばらしいことなんですけれども、ABMORI事業はどうかという、私はこのような指針でやっているとは思えないんです。1回目も表土を剥がしてその地にはない苗を1万本、2回目も同じく植生調査を行って稚樹移植活動育苗プロジェクトなどは行いましたけれども、まだまだやはりこの自然を壊してしまう状況になっていると私は思っております。この方法について、29年度はどうか自然公園における生物多様保全重要な高まりというものと考えて、遺伝子レベル、それから生態系、それから種のこういったものを自分たちの地にあるものを1万個、それは無理でしょう。だったら、先ほど苗の500万近くのお金、そういったものを業者に志賀高原にある地域の種をつくってもらおうと、そういったものをABMORIの事業に入れていくという考えはいかがでしょうか。

**議長（小淵茂昭君）** 農林課長。

**農林課長（山本和幸君）** お答えします。

徳竹議員のご提案につきましては、大変貴重な提案ということで受けとめております。最初の答弁でも申し上げましたとおり、いわゆる子供たち、苗から、あるいはドングリからというものはまだ27年、28年、始まったばかりでございます。ここの生育も見守りながら、当然、在来である植物を植えていくというのはもちろん大事ですけれども、今回3回目になりますABMORIにおける植樹の樹種の選定に関しましては、国際生態学センターの植生調査の結果に基づいて樹種の選定を行っております。同レベルの標高、気候、そこで志賀高原の前山、笠ヶ岳に見合う、そこで生育できるそういった樹種を選定してございます。そういったことから、確かに苗木の部分につきましては、決してお安いものではございません。それは承知しておりますけれども、そういったいろいろな専門家の皆さんの意見も聞きながら進めているということをご理解いただきたいということも申し添えておきます。

以上です。

**議長（小淵茂昭君）** 9番 徳竹栄子君。

**9番（徳竹栄子君）** これ見てください。これは東京のドングリです、細長い。これは北志賀のドングリ、丸い。このぐらい同じドングリでも違うんです。これはきっと遺伝子も違うと思います。これをやはり北志賀のドングリを志賀に植えるんじゃなくて、やはりその地にあるドングリを育て、東小学校の小さな子供たちが200個つくっております。もっとですか。そういった活動をもっともっと広げていき、山ノ内全体でもっとほかから買う苗木を減らして、自分たちでつくった苗木をABMORIの事業に変えていくという気持ちが私は必要である。そうで

なければユネスコエコパークとしての町としては、余りにも貧弱な取り組みになってしまう。せっかく有名な方が来ているのに、内容がやはり充実するのではないかということですが、その辺について町長の答弁を聞き、終わります。

**議長（小淵茂昭君）** 竹節町長。

**町長（竹節義孝君）** 先ほどからいろいろ徳竹議員のお話をお聞きしていますと、きのうちちょっとテレビ番組で小池知事がおっしゃっていました。東京オリンピックをどう成功させるか、そのためにどうすればいいかと、そういう思いはみんな一致している。ただし、だめな理由を皆さんが盛んに探してくる、こういうことで果たして本当に東京オリンピックがいい方向に行くのかということをお池知事さんがテレビの番組で訴えておりました。

ABMORIというのは、先ほども冒頭申し上げましたけれども、よその市町村から見れば何千万、海老蔵さんなんかお金で来るの、何千万かかるのというふうにおっしゃっています。もちろん海老蔵さんは歌舞伎でないからギャラはゼロだと、自分で行きますと。ことしもご自分のお車でお越しになっておられますけれども、そういう人が来ることによって、全国25都府県の皆さんにお越しいただけるという、こういうこの効果、これをぜひご理解いただきたいことと、私が知事からお話をいただいたときに、即オーケーしたのはユネスコエコパークの核心エリアの入り口であると同時に、志賀高原の閉鎖されたスキー場再生を取り組みたいと。こういうことの中でぜひ協力していきたいと、こういうお話をさせていただきましたし、また、海老蔵さんもことしも280万ぐらい寄附を集めていただいたりして、そうやって積極的にご協力いただきました。

なぜ、ああいう形の方式でやっているかということ、小林麻央さんが、奥さんでございませけれども、宮脇方式での植樹を私は経験して、海老蔵さんにぜひその方式でやるのがいいんじゃないかということとございました。長野県も吉村知事、オリンピック当時はその宮脇方式ですずっと進めていたんですけれども、田中知事にかわったときに、宮脇方式はだめだということで、あの方が飯綱にあります自然保護センターの所長をやって進めてたんですけれども、それが切られまして、それ以来だということと非常に本人もここへ海老蔵さんの肝いりで志賀高原に再び来れるということは非常にうれしいし、ユネスコエコパークの中でこういうことができる。要するに国立公園で植樹ができるというのはよそにはない。こういうことにまた意義があると、こういうことをおっしゃっておられました。

樹種についてもだめなことをおっしゃっておられますけれども、これは環境省が樹種の選定に全面的にかかわっております。ですから、環境省から見た立場でありますし、長野県の林務部もかかわっておられまして、そして、全国の国土緑化機構のほうでも、そういった苗木の補助を出していただいたりして、みんなが協力して、この志賀高原のスキー場再生、ユネスコエコパーク、そして、ここを通してこの志賀高原から世界へ、未来へと、こういうコンセプトで今日の大気汚染だとか、非常にPM2.5だとか、こういうものを海老蔵さんはなくしていくためには、何か自分ができることということで始まってきていることとございますし、これも

し徳竹議員のおっしゃるようなそういうことであれば、環境省も横向くだろうし、長野県の知事も横向くだろうし、もちろん山ノ内町だってそんなことじゃ協力できないということになるわけでございますけれども、そういうことで樹種を選定していただいたり、子供たちがそれぞれ横手山スキー場や笠越スキー場で苗木を掘り起こしながら育苗活動としてやってきているという、こういう事業でございます。

宮脇方式で申し上げますと、鳥が実をつまんで飛んで行って、よそへ行ってふんをすれば、そこでまた新しい芽が育つと。だから、そこに限定したものでなきゃだめという基本的な考えは捨てたほうがいいんじゃないかと。こんなことをおっしゃりまして、それが林野庁と意見が合いませんで、そして、林野庁や田中知事とは背中を向け合ったんですけれども、林野庁も数年前から、ぜひ宮脇方式の理論が納得できると。世界70カ国近く、宮脇方式で今植樹されているという。先生は去年から体調を崩されて、今療養中でございますけれども、そういうことが日本だけでなく世界でも評価されているという方式ですから、私はそういう意味で、ただ、そこへそれだけでいくんじゃなくて環境省や長野県も入って、樹種選定とかいろんなことをしておりますので、ぜひ前向きな意味での積極的な参加をお願いしたいし、また、そうでなければせっかく海老蔵さんや長野県知事、前の観光庁長官とかいろんな皆さんがお見えになって積極的に進めていただいていることに、いろんな変な色がついてしまうということは私は非常に残念だし、これがそういうことが皆さんの中で出てくること自体が、今度はこれからのA B M O R I活動に対して若干のいろんなうわさ、変なことになること自体が非常に懸念することになってはいけません。これからただ何でもかんでも丸のみするというものではございません。必ず私ども県や環境省も入っていろいろそういうことをさせていただいておることだけはご理解いただき、これからも町としても来年度に向けて、十分皆さん方と意思疎通を図りながら対応していきます。

ぜひ、議会の皆さんも全面的にご協力をいただきたいということを最後にお願い申し上げますながら、最後のあれになるということでございますので、時間切れのようでございますけれども、よろしくお願ひしたいと思ひます。

**議長（小淵茂昭君）** 制限時間となりましたので、9番 徳竹栄子君の質問を終わります。

---

**議長（小淵茂昭君）** 以上をもって本日の会議を閉議し、散会します。

ご苦勞さまでした。

(散 会)

(午後 2時49分)